

綾瀬市地域医療に関する市民アンケート調査
報告書

令和8年2月

綾瀬市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 注意事項	1
II 調査結果	2
1. 回答者ご自身について	2
2. 地域医療の理解と普及について	14
3. 日常の医療機関（病院、診療所）への受診状況について	17
4. 入院したことがある病院について	25
5. 二次医療機関の誘致について	32
6. 綾瀬市の地域医療について	35
7. 地域医療の向上について	40
III 調査結果の要約	41
IV 調査結果の考察と施策への反映	43

I 調査の概要

1. 調査目的

地域医療に対する市民ニーズを把握し、二次救急医療機関や一次医療機関を含めた地域の医療体制のあり方の基礎資料を作成する。その基礎資料を踏まえ、二次救急医療機関の誘致を含む市の施策に活用する。

2. 調査の内容

本調査は、綾瀬市の地域医療に関する 33 項目について調査項目を設定し、市民の地域医療に関する「満足度」、「重要度」、「要望」等について調査を実施した。

- (1) 調査地域 : 綾瀬市全域
- (2) 対象者 : 満 18 歳以上の市民
- (3) 標本数 : 2,000 人
- (4) 抽出方法 : 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 : 郵送配布・郵送及び Web の併用回収
- (6) 調査期間 : 令和 7 年 9 月 12 日 (金) から 10 月 10 日 (金)
- (7) 回収結果 :

発送数(a)	有効回答数(b)	有効回収率 (b)/(a)
2,000 票	951 票*	47.6%

※有効回答数のうち、「紙」での回答 69.4%、「Web」での回答 30.6%

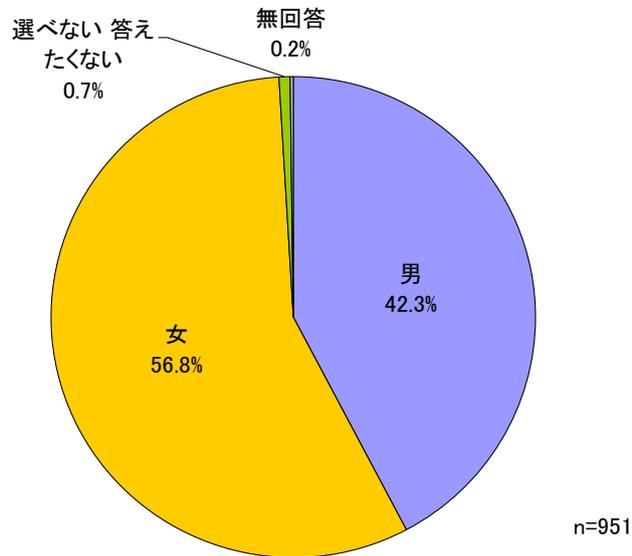
3. 注意事項

- (1) 調査結果の比率は、その設問の回答数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出している。四捨五入の関係で、合計が 100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常 100%を超える。
- (3) 図表中の「n」とは、その設問への回答者数を表す。
- (4) 年代別の分析では、10 歳代の回答者数が少ないため、10 歳代と 20 歳代を合計して分析している。

Ⅱ 調査結果

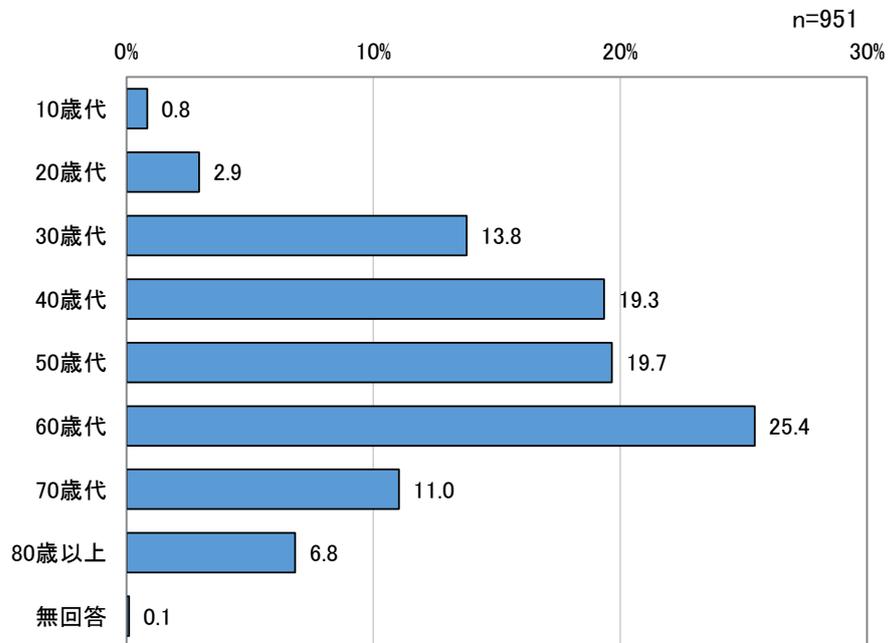
1. 回答者ご自身について

問1. 性別（1つを選択）



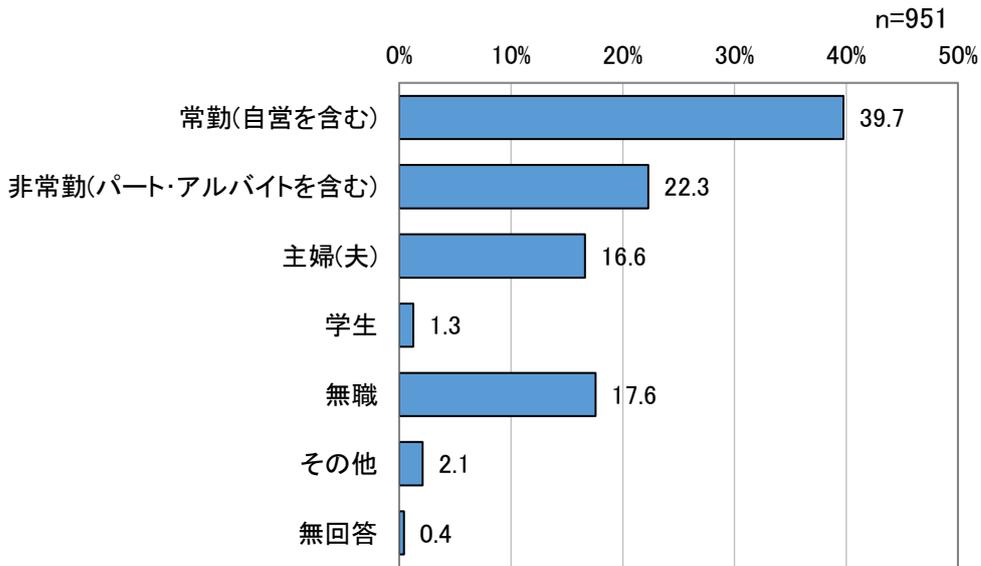
「女」56.8%、「男」42.3%、「選べない 答えたくない」0.7%であった。

問2. 年齢（1つを選択）

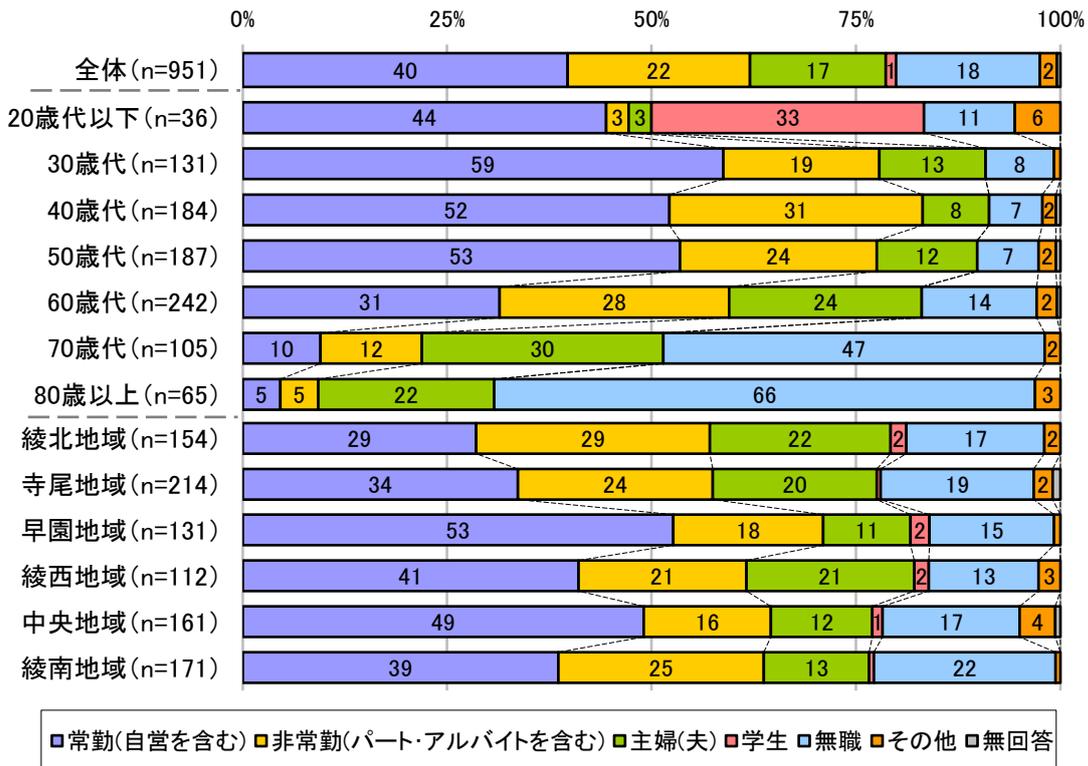


「60歳代」25.4%、「50歳代」19.7%、「40歳代」19.3%、「30歳代」13.8%、「70歳代」11.0%、「80歳以上」6.8%、「20歳代」2.9%、「10歳代」0.8%となっている。

問3. 職業（1つを選択）

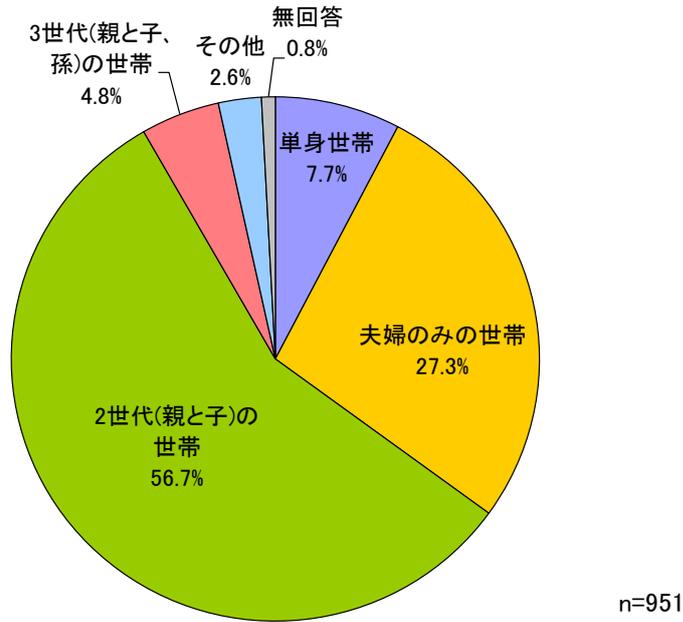


「常勤(自営を含む)」39.7%、「非常勤(パート・アルバイトを含む)」22.3%、「無職」17.6%、「主婦(夫)」16.6%、「学生」1.3%、その他 2.1%となっている。

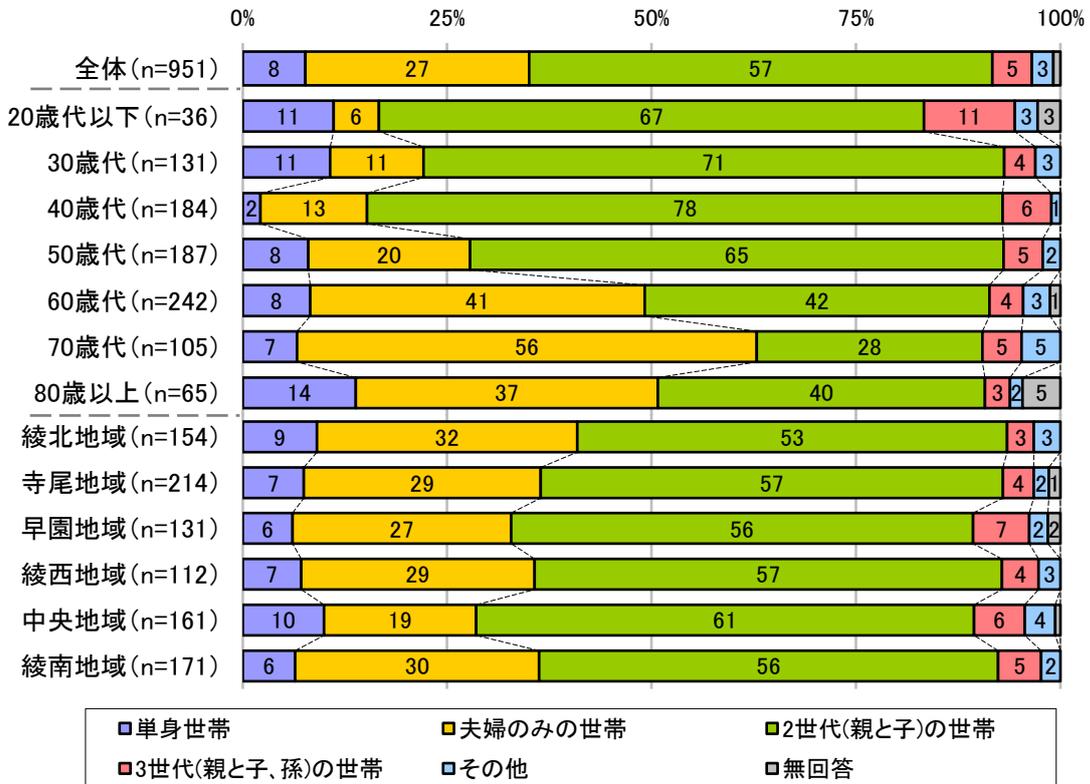


常勤職員の比率は、30歳代が最も高く、50歳代、40歳代が続いている。

問4. 家族構成（1つを選択）

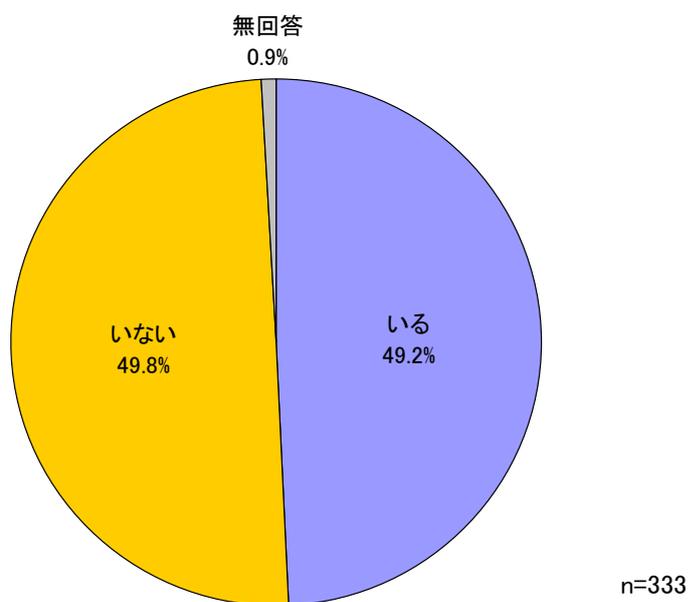


「2世代(親と子)の世帯」56.7%、「夫婦のみの世帯」27.3%、「単身世帯」7.7%、「3世代(親と子、孫)の世帯」4.8%、その他2.6%となっている。



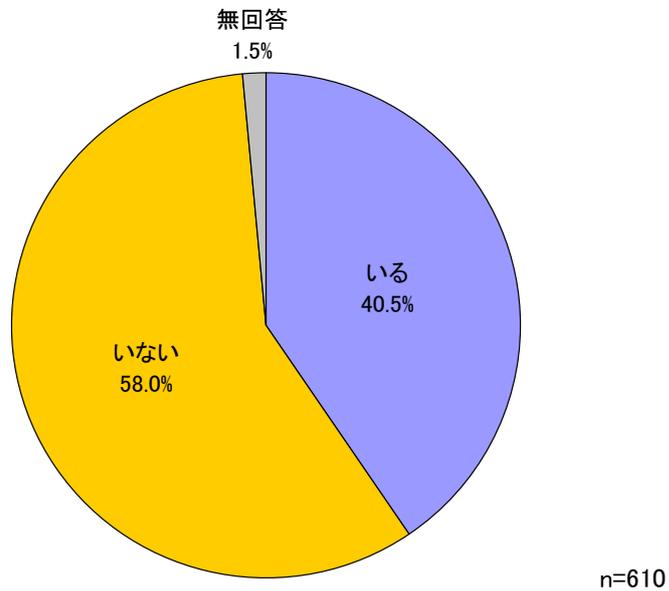
単身世帯の比率は、80歳以上が最も高く、20歳代以下、30歳代が続いている。

問 4 付問 1 同居家族の中に 65 歳以上の方がいますか。



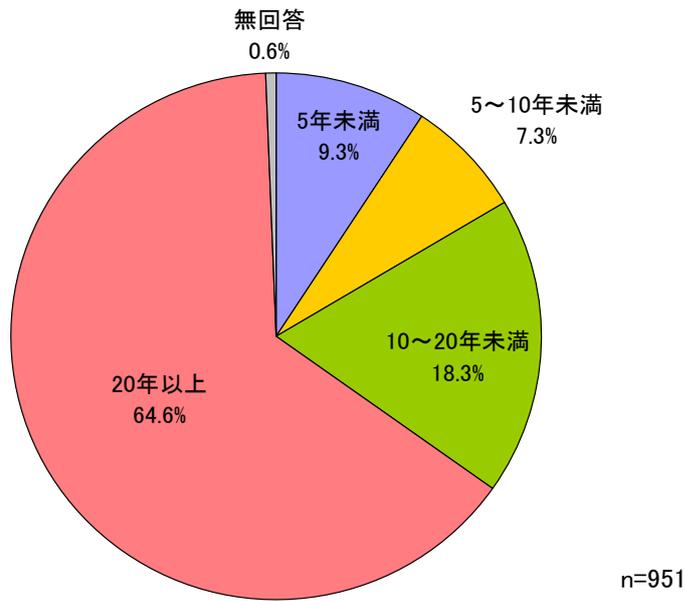
「いない」 49.8%、「いる」 49.2%となっている。

問 4 付問 2 同居家族の中に高校生以下の子どもがいますか。

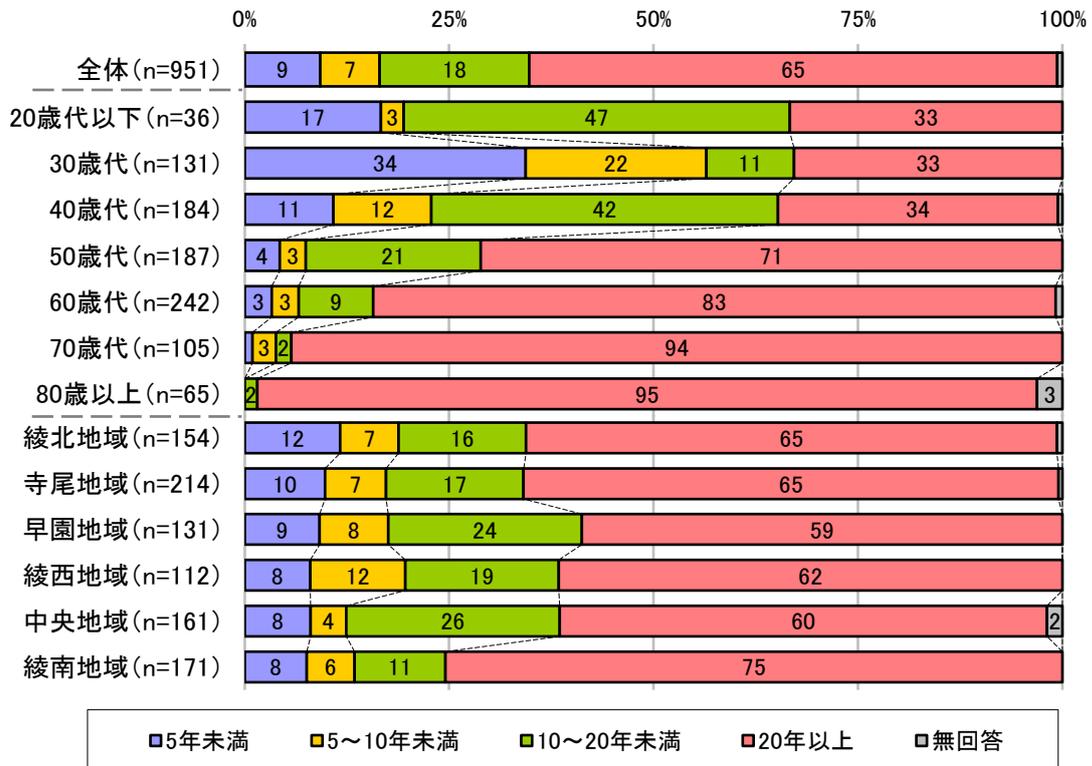


「いない」 58.0%、「いる」 40.5%となっている。

問5. 綾瀬市での居住年数（1つを選択）

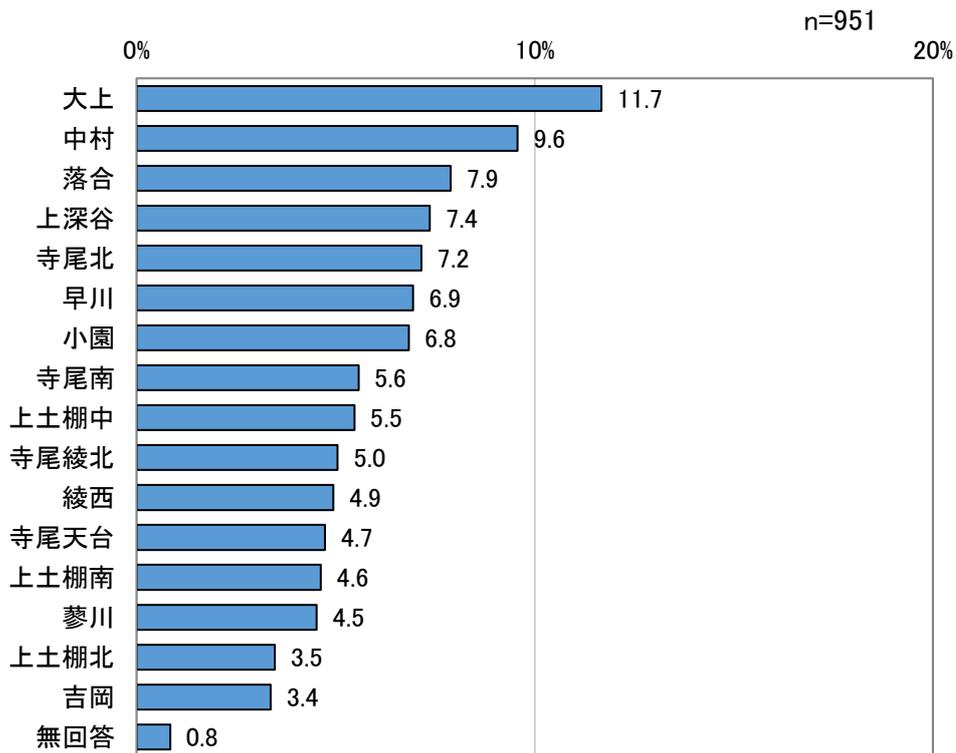


「20年以上」64.6%、「10~20年未満」18.3%、「5年未満」9.3%、「5~10年未満」7.3%となっている。



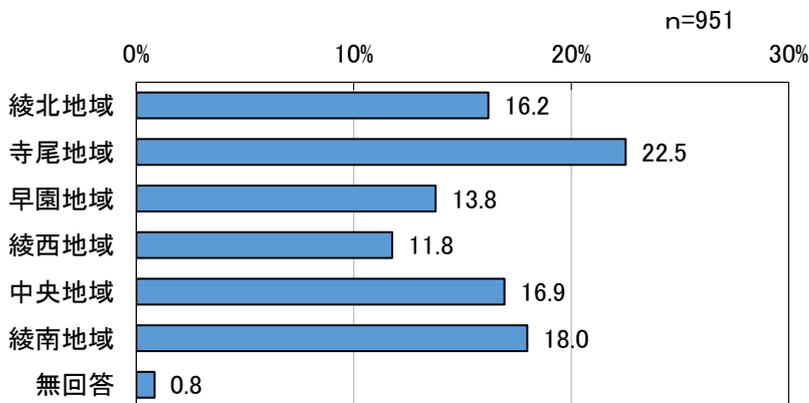
年齢が高くなるほど、居住年数20年以上の比率が高い。居住年数が5年未満の比率は30歳代が最も高い。

問6. 現在お住まいの地域（1つを選択）

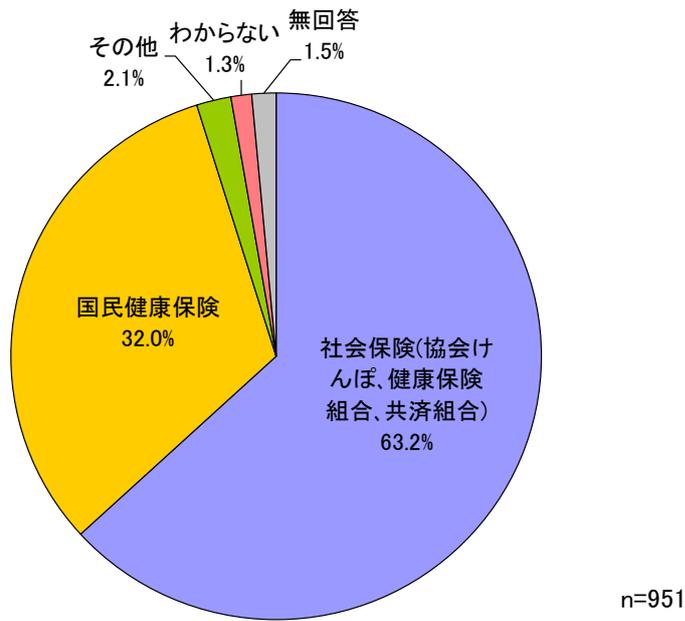


「大上」11.7%、「中村」9.6%、「落合」7.9%、「上深谷」7.4%、「寺尾北」7.2%、「早川」6.9%、「小園」6.8%、「寺尾南」5.6%、「上土棚中」5.5%、「寺尾綾北」5.0%、「綾西」4.9%、「寺尾天台」4.7%、「上土棚南」4.6%、「蓼川」4.5%、「上土棚北」3.5%、「吉岡」3.4%となっている。さらに上記で選択された地域を以下の6地域に分類して集計した。

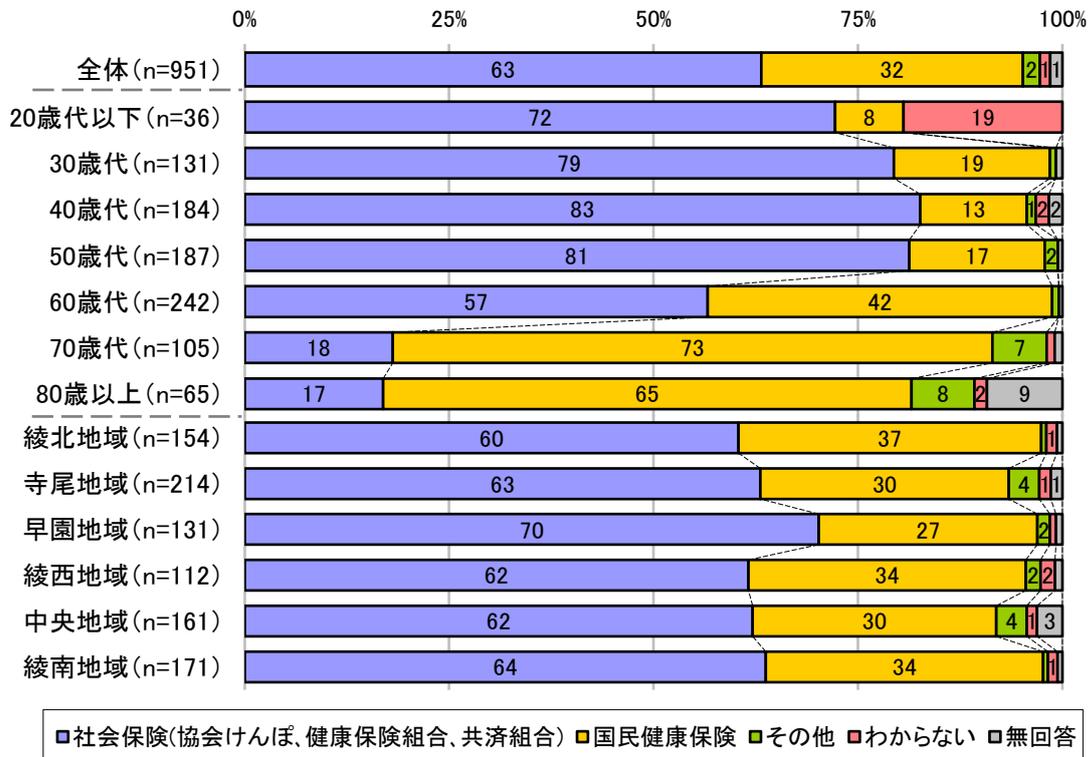
- 綾北地域 : 大上、蓼川
- 寺尾地域 : 寺尾南、寺尾綾北、寺尾北、寺尾天台
- 早園地域 : 小園、早川
- 綾西地域 : 吉岡、綾西、上土棚北
- 中央地域 : 中村、上深谷
- 綾南地域 : 落合



問7. 現在加入している健康保険の種類を教えてください。(1つを選択)

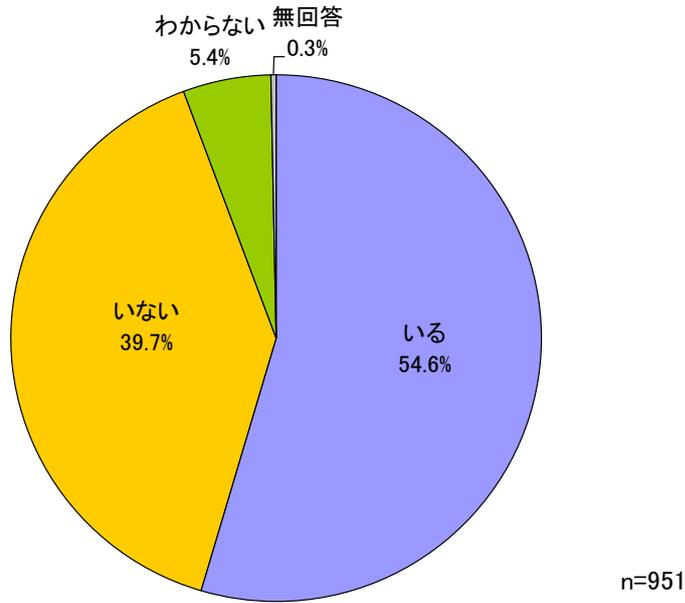


「社会保険(協会けんぽ、健康保険組合、共済組合)」63.2%、「国民健康保険」32.0%、「わからない」1.3%、その他2.1%となっている。

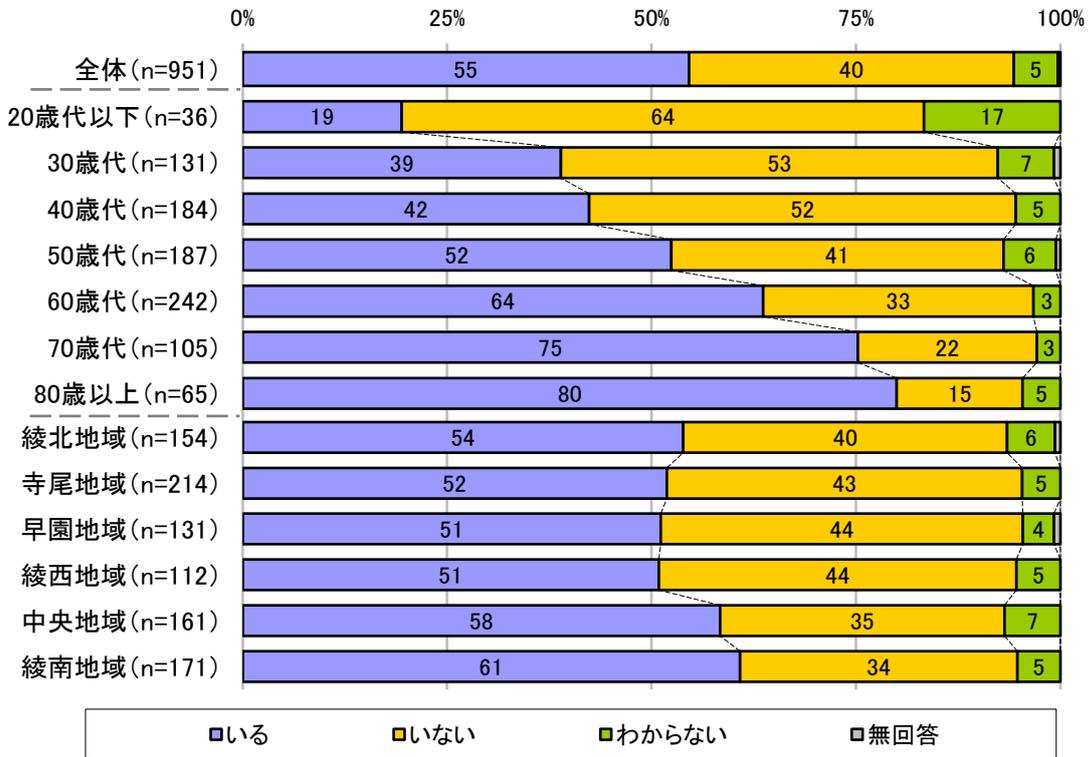


50歳代までは社会保険の比率が高く60歳代を境に国民健康保険の比率が高まっている。

問8. かかりつけ医はいますか。(1つを選択)

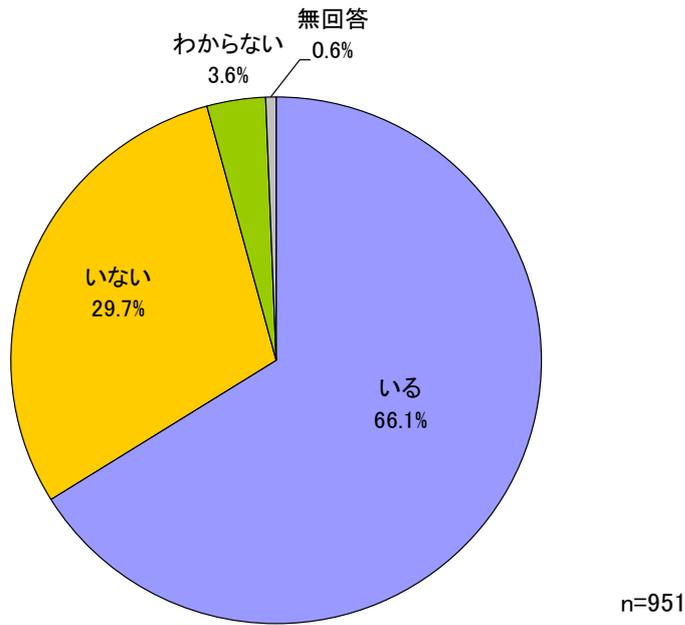


「いる」54.6%、「いない」39.7%、「わからない」5.4%となっている。

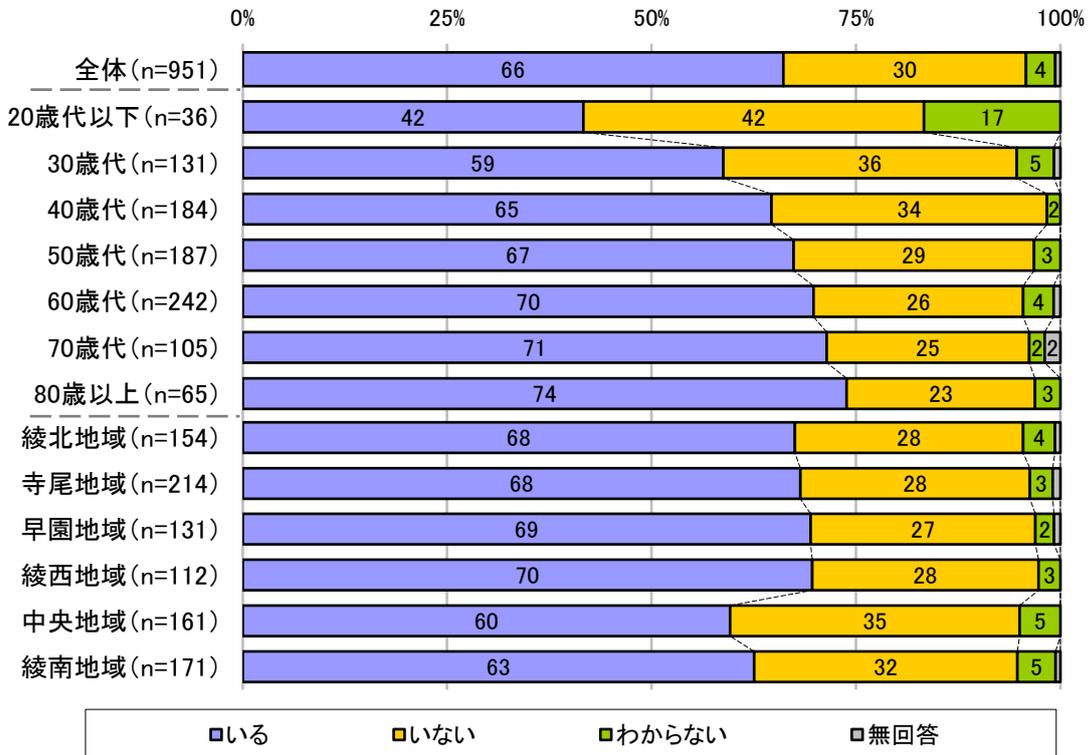


かかりつけ医がいる比率は、年齢が高くなりにつれて高まっている。

問9. かかりつけ歯科医はいますか。(1つを選択)

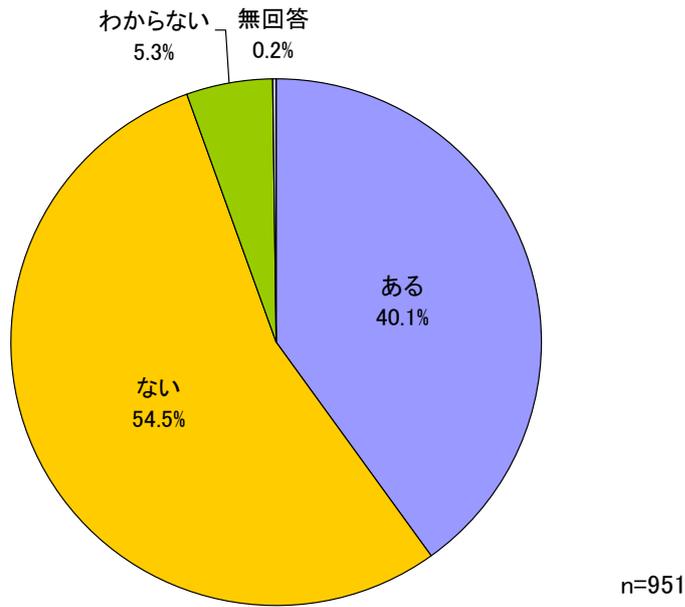


「いる」66.1%、「いない」29.7%、「わからない」3.6%となっている。

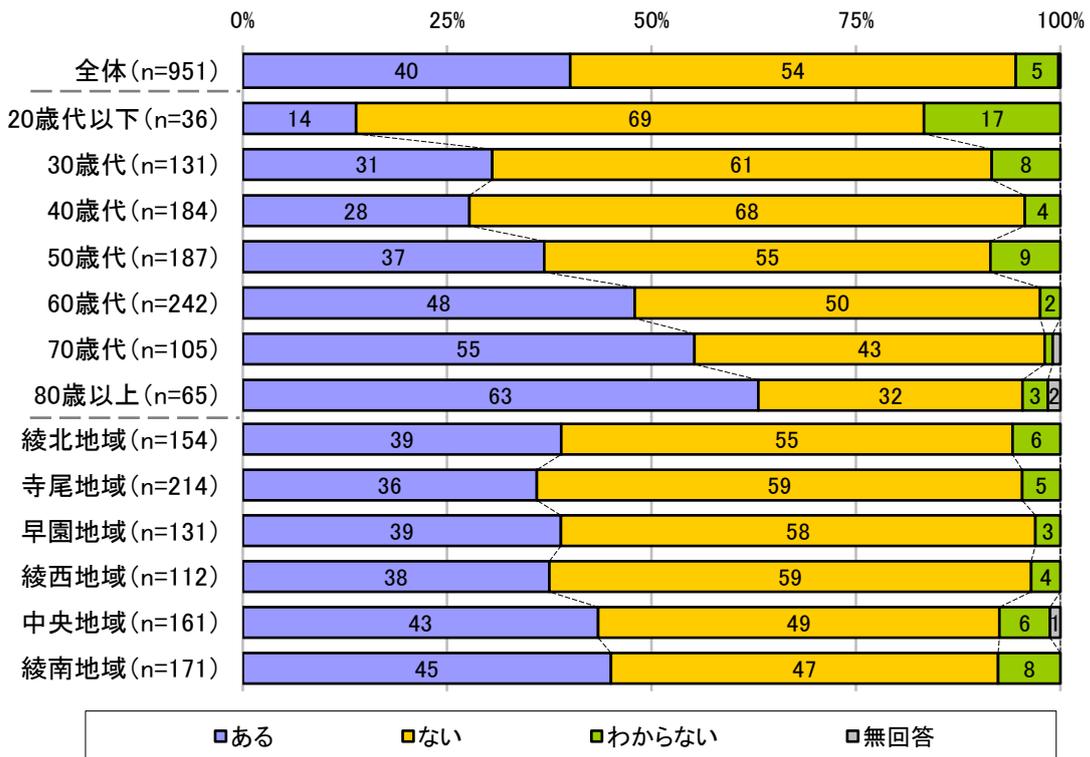


かかりつけ歯科医のいる比率もかかりつけ医同様に年齢が高くなるにつれて高まっている。

問10. かかりつけ薬局はありますか。(1つを選択)

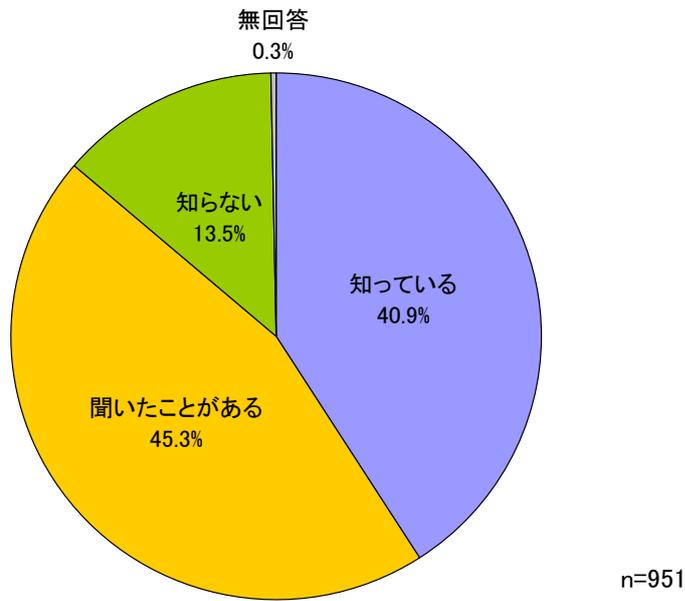


「ない」54.5%、「ある」40.1%、「わからない」5.3%となっている。

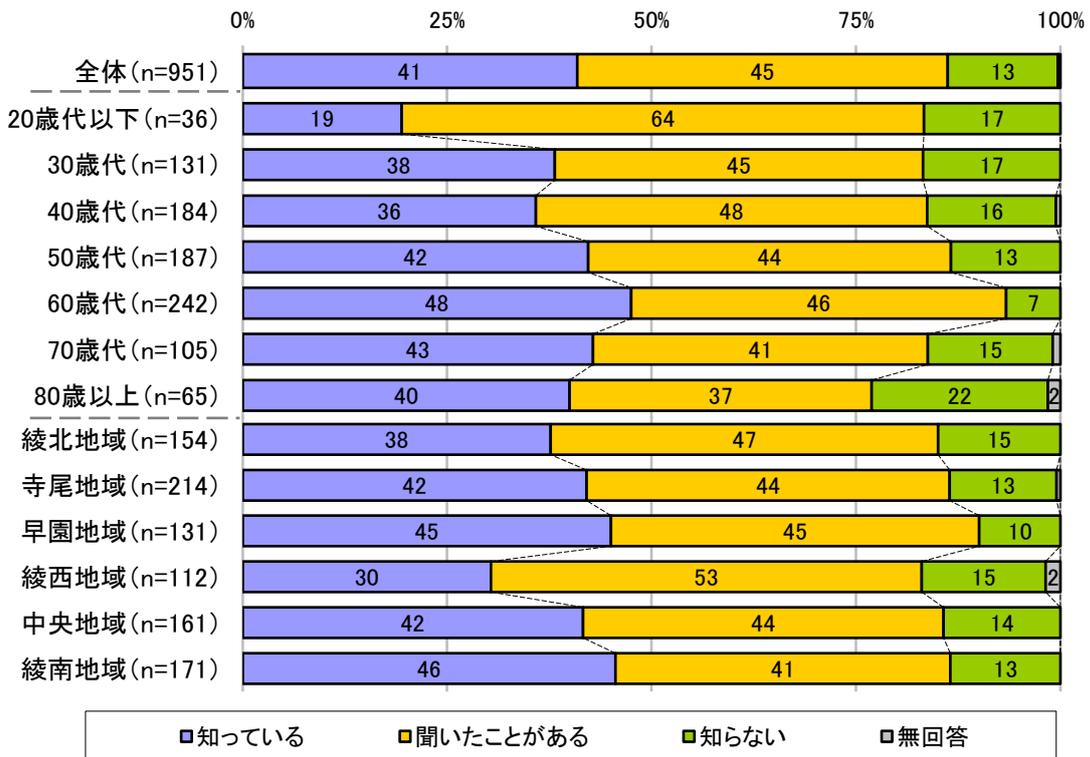


かかりつけ薬局のある比率は年齢が高くなるにつれて高まっている。

問1 1. 在宅医療について知っていますか。(1つを選択)

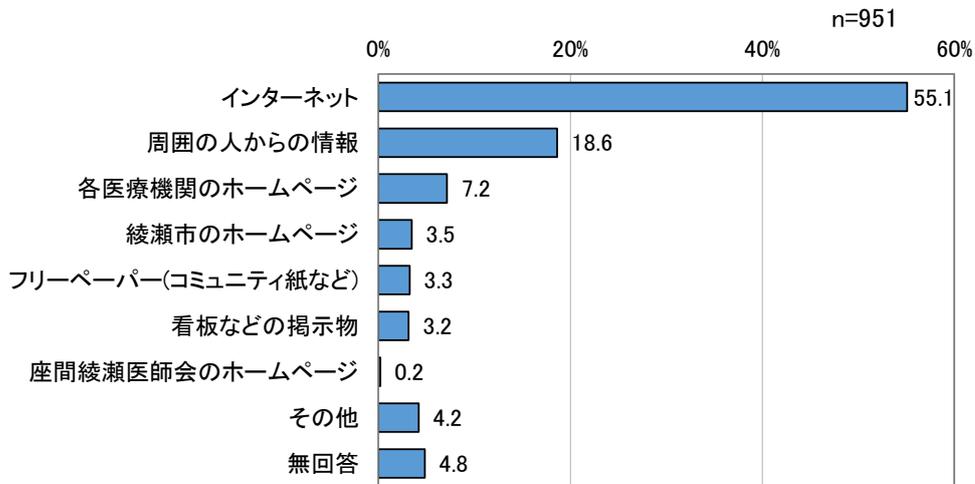


「聞いたことがある」45.3%、「知っている」40.9%、「知らない」13.5%となっている。

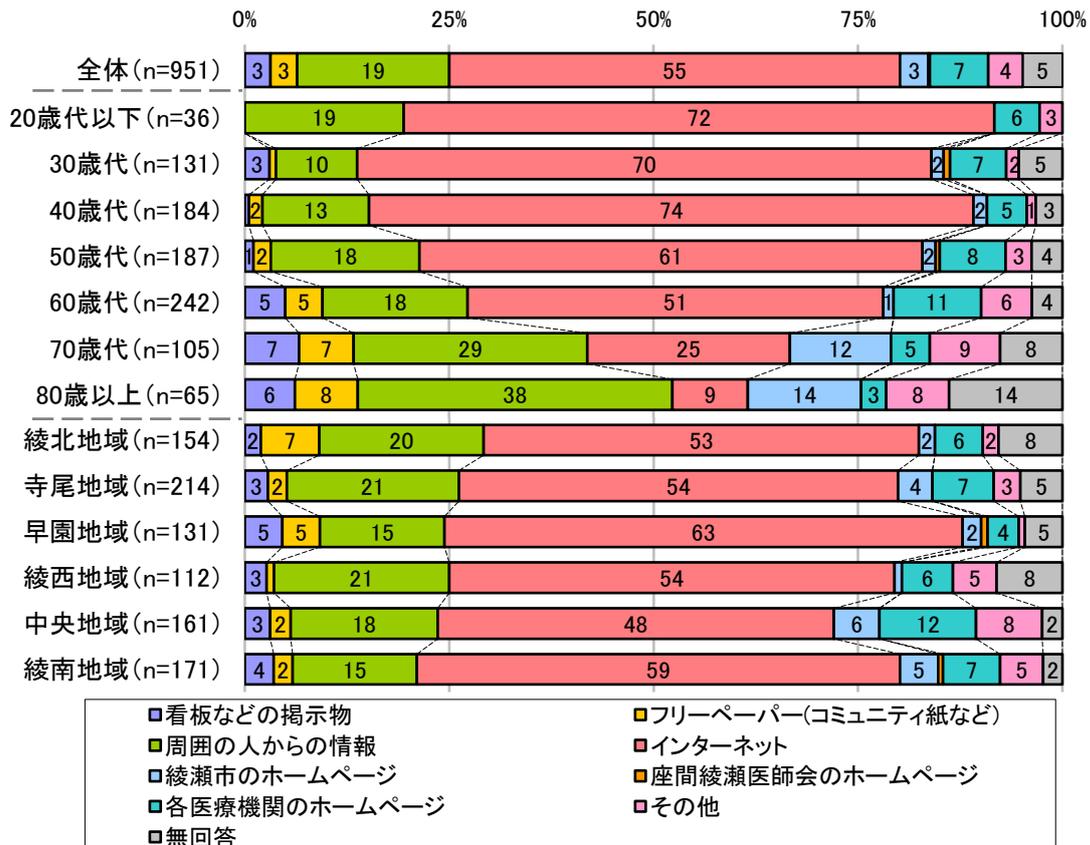


「在宅医療について知っている」と「聞いたことがある」の合計は、60歳代が最も高い。

問 1 2. 医療機関の情報を得る手段として普段最もよく使うものを教えてください。
(1つを選択)



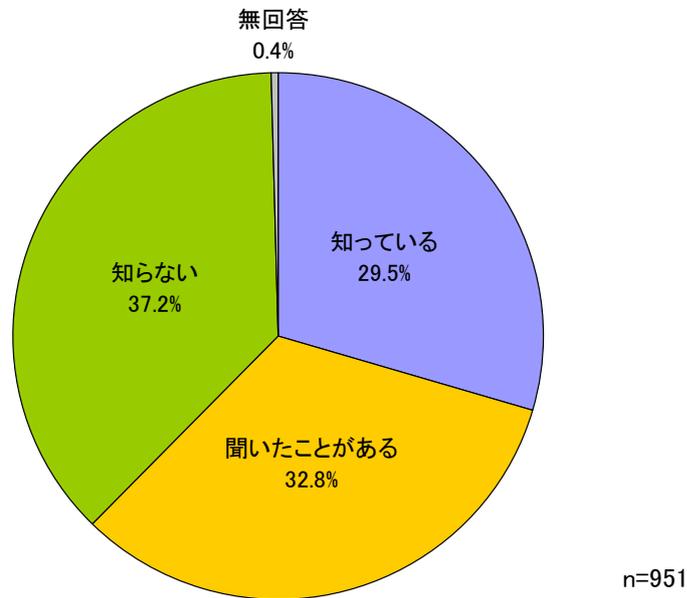
「インターネット」55.1%、「周囲の人からの情報」18.6%、「各医療機関のホームページ」7.2%、「綾瀬市のホームページ」3.5%、「フリーペーパー(コミュニティ紙など)」3.3%、「看板などの掲示物」3.2%、「座間綾瀬医師会のホームページ」0.2%、その他 4.2%となっている。



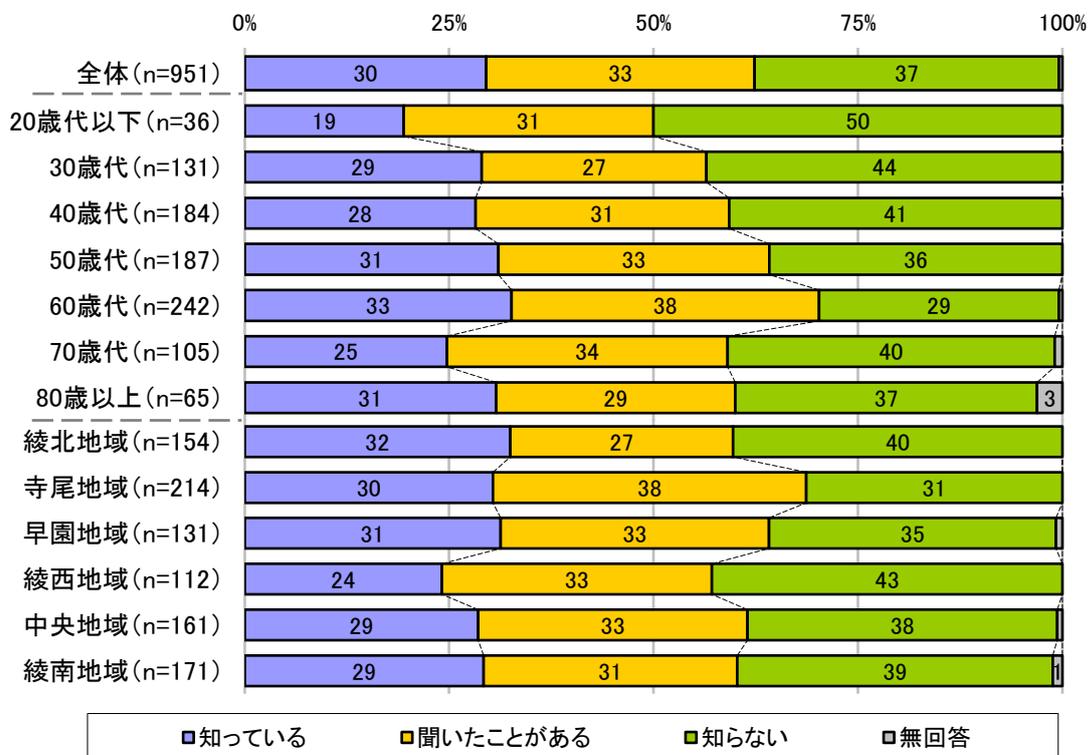
最も多い情報源はインターネットであり、世代別では20歳代以下から60歳代で半数以上となっている。

2. 地域医療の理解と普及について

問 1 3. 医療機関には、一次医療機関、二次医療機関、三次医療機関とそれぞれ役割があり、役割に応じた医療機関を受診することが望ましいということを知っていますか。(1つを選択)

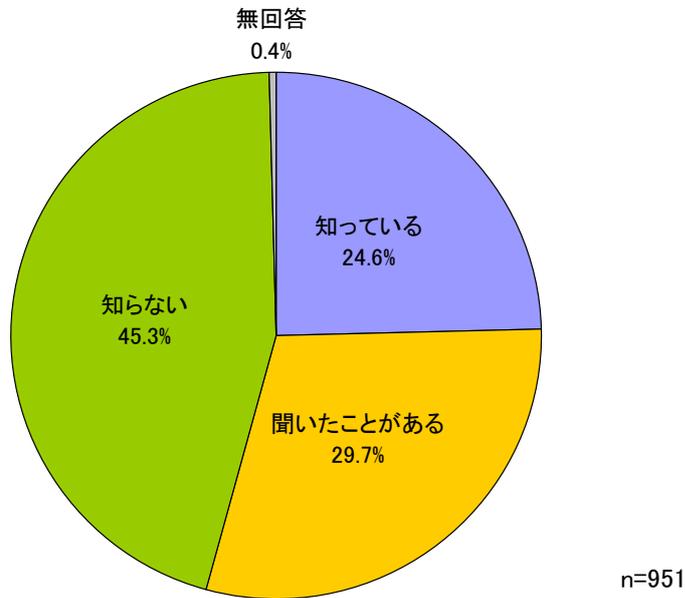


「知らない」37.2%、「聞いたことがある」32.8%、「知っている」29.5%となっている。

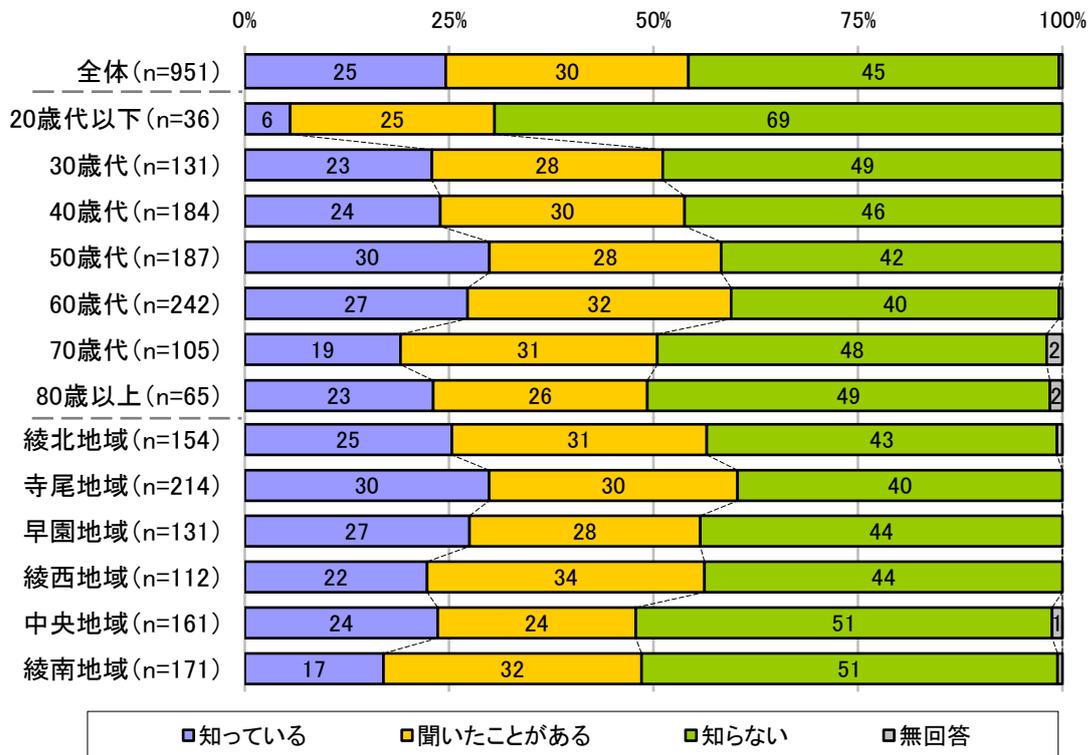


「知っている」と「聞いたことがある」の合計は、60歳代が最も高い。

問14. 病院の病床機能が高度急性期、急性期、回復期、慢性期に分かれており、それぞれの役割が違うことを知っていますか。(1つを選択)

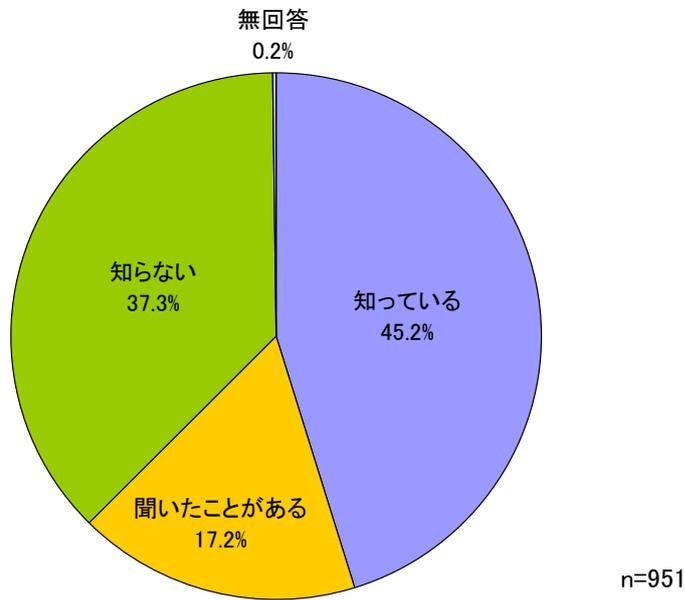


「知らない」45.3%、「聞いたことがある」29.7%、「知っている」24.6%となっている。

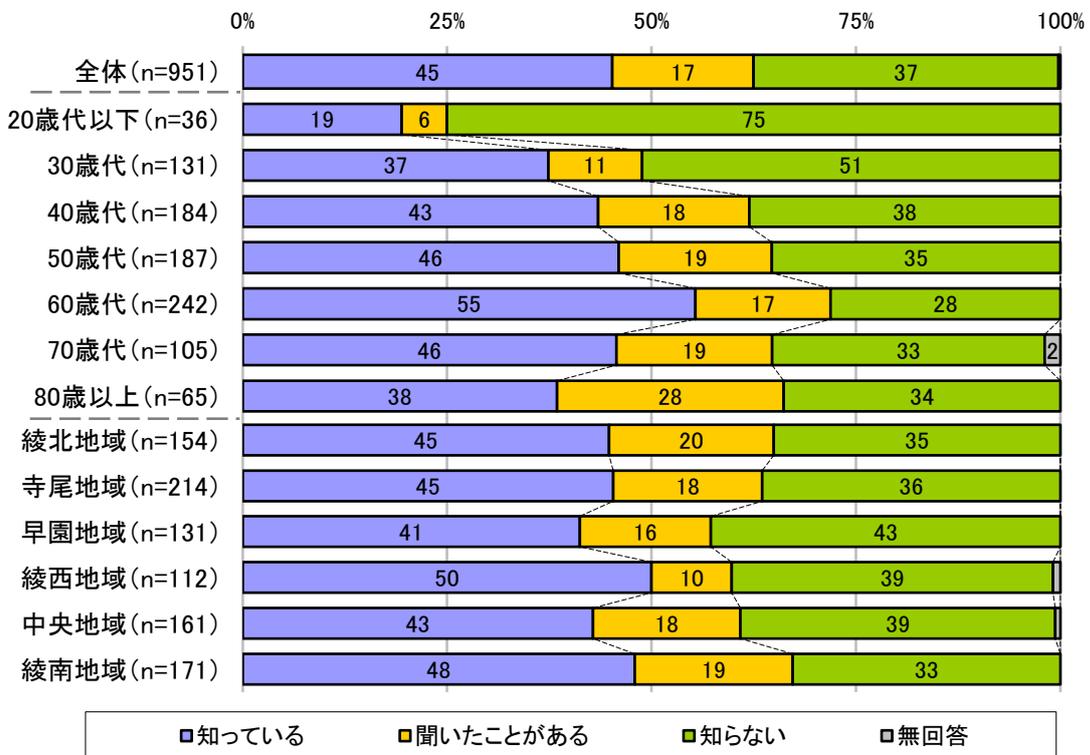


「知っている」と「聞いたことがある」の合計は、50歳代と60歳代が高い。

問15. 医療機関からの紹介状なしで200床以上の病院を受診する場合には、通常の医療費以外に「初診時選定療養費」が必要となることを知っていますか。
(1つを選択)



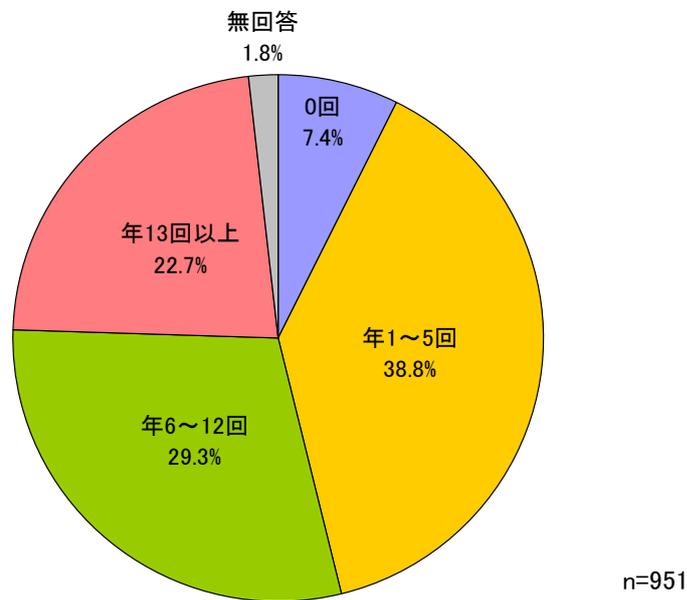
「知っている」45.2%、「知らない」37.3%、「聞いたことがある」17.2%となっている。



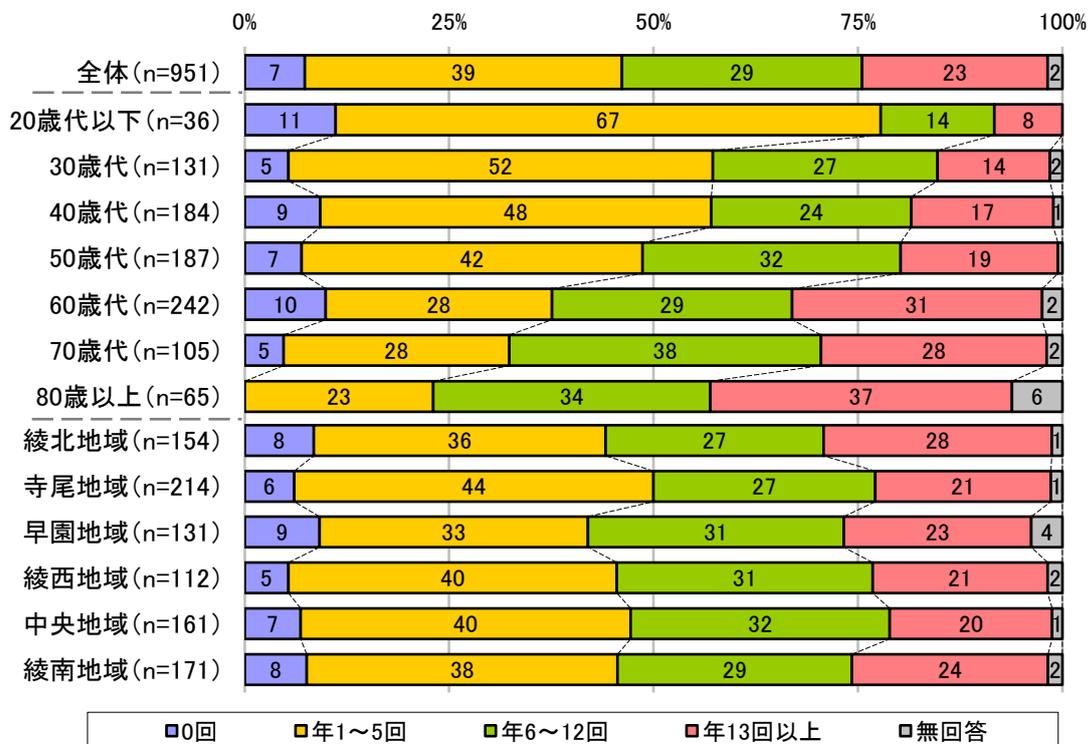
「知っている」と「聞いたことがある」の合計は、60歳代が最も高い。

3. 日常の医療機関（病院、診療所）への受診状況について

問16. 過去1年間で医療機関を受診した回数はおよそ何回程度ですか。（1つを選択）

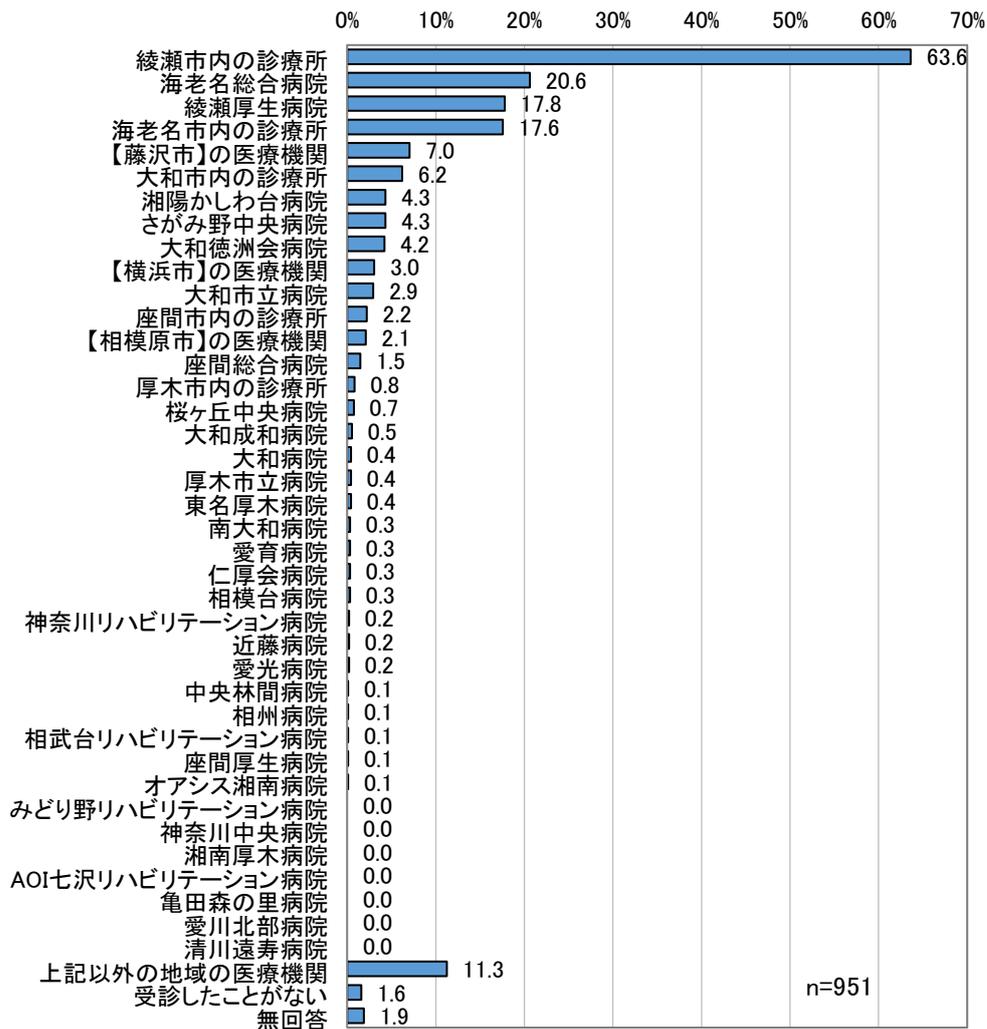


「年1~5回」38.8%、「年6~12回」29.3%、「年13回以上」22.7%、「0回」7.4%となっている。

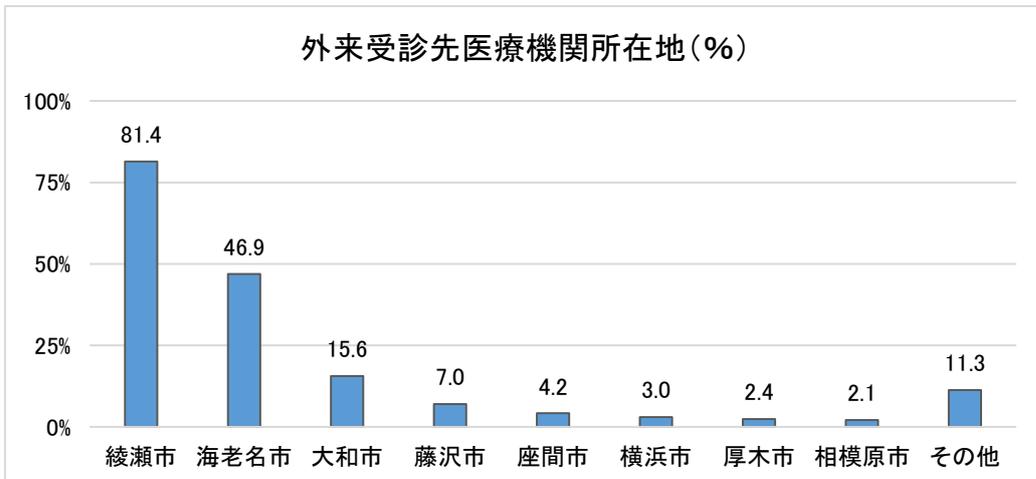


受診した回数は、年齢が高いほど多い。

問17. 外来診療を受ける医療機関について教えてください。(あてはまるものすべて)



市民が外来診療を受診している医療機関で最も多いのは綾瀬市内の診療所 63.6%で、次いで海老名総合病院 20.6%、綾瀬厚生病院 17.8%、海老名市内の診療所 17.6%となっている。



外来受診先の医療機関の所在地では綾瀬市 81.4%、次いで海老名市 46.9%、大和市 15.6%、藤沢市 7.0%、座間市 4.2%、横浜市 3.0%、厚木市 2.1%となっている。

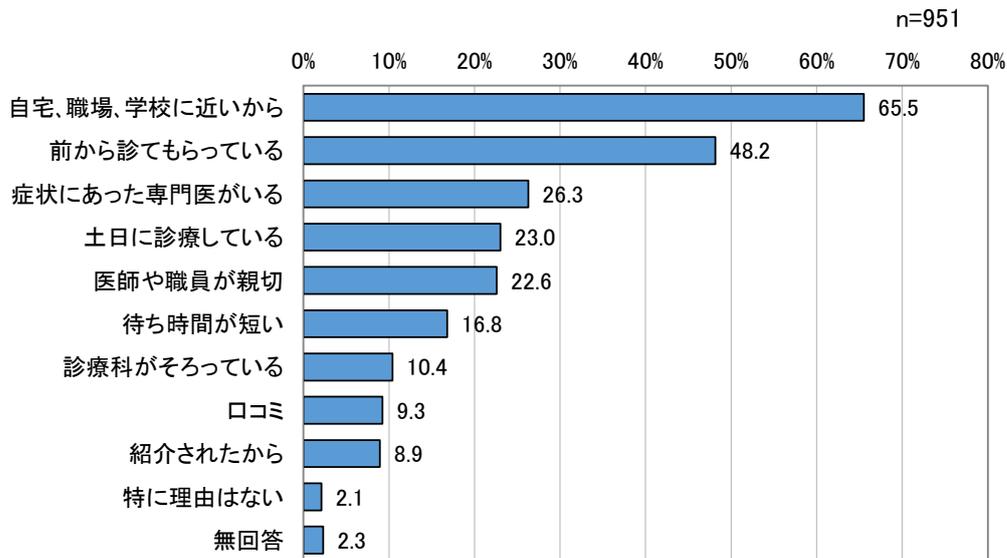
区分	綾瀬市内の 診療所	海老名総合 病院	綾瀬厚生 病院	海老名市内 の診療所	上記以外の 地域
全体(n=951)	63.6%	20.6%	17.8%	17.6%	11.3%
20歳代以下(n=36)	77.8%	16.7%	11.1%	22.2%	2.8%
30歳代(n=131)	68.7%	10.7%	12.2%	21.4%	9.9%
40歳代(n=184)	68.5%	11.4%	13.6%	22.3%	10.3%
50歳代(n=187)	67.4%	15.5%	16.0%	16.0%	16.0%
60歳代(n=242)	60.3%	23.6%	17.8%	14.0%	13.6%
70歳代(n=105)	57.1%	34.3%	27.6%	15.2%	5.7%
80歳以上(n=65)	44.6%	50.8%	33.8%	15.4%	7.7%
綾北地域(n=154)	48.1%	18.8%	7.1%	23.4%	13.0%
寺尾地域(n=214)	61.2%	26.2%	20.6%	25.2%	8.9%
早園地域(n=131)	61.1%	30.5%	23.7%	24.4%	9.9%
綾西地域(n=112)	64.3%	24.1%	17.9%	20.5%	13.4%
中央地域(n=161)	75.2%	15.5%	20.5%	11.2%	11.8%
綾南地域(n=171)	71.9%	10.5%	16.4%	2.3%	12.3%

(全体で10%以上の医療機関を抜粋)

外来診療を受ける医療機関のうち10%を超えるのは、上記の5つの選択肢である。世代別では、綾瀬市内の医療機関（綾瀬市内の診療所、綾瀬厚生病院）に通院しているのは、20歳代以下と70歳代が比較的多い。海老名市内の医療機関（海老名総合病院、海老名市内の診療所）に通院しているのは、70歳代以上が比較的多い。

地域別では、綾瀬市内の医療機関に通院しているのは、中央地域と綾南地域が多く、綾北地域は少ない。海老名市内の医療機関に通院しているのは、寺尾地域と早園地域が多く、中央地域と綾南地域が少ない。

問18. 外来診療を受ける医療機関を選ぶポイントを教えてください。
(あてはまるものすべて)

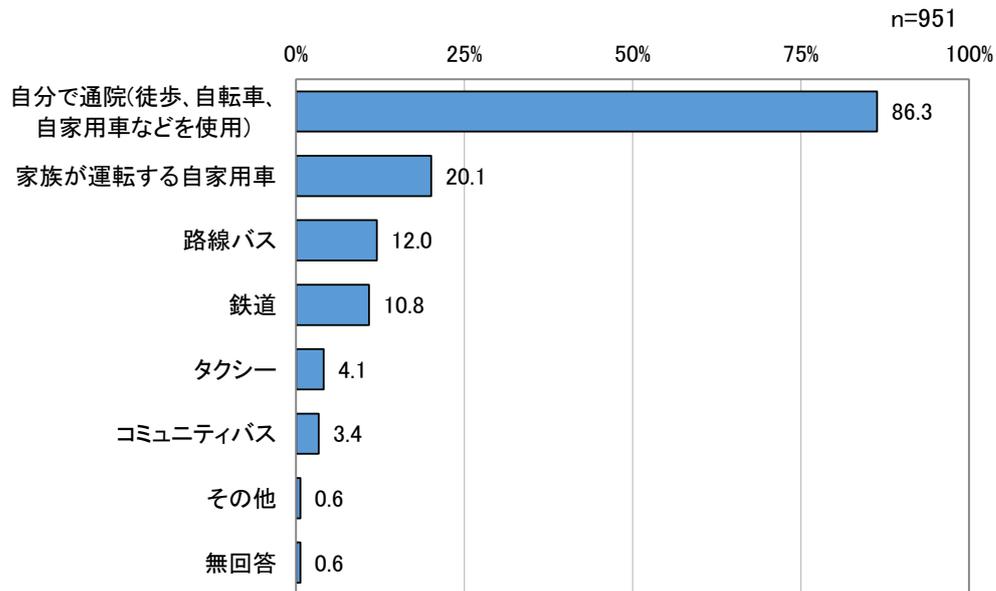


「自宅、職場、学校に近いから」65.5%、「前から診てもらっている」48.2%、「症状にあった専門医がいる」26.3%、「土日に診療している」23.0%、「医師や職員が親切」22.6%、「待ち時間が短い」16.8%、「診療科がそろっている」10.4%、「口コミ」9.3%、「紹介されたから」8.9%、「特に理由はない」2.1%となっている。

区分	自宅	前から	専門医	土日	親切	待時間	診療科	口コミ	紹介
全体 (n=951)	65.5%	48.2%	26.3%	23.0%	22.6%	16.8%	10.4%	9.3%	8.9%
20歳代以下 (n=36)	75.0%	41.7%	16.7%	27.8%	13.9%	16.7%	5.6%	11.1%	2.8%
30歳代 (n=131)	73.3%	31.3%	31.3%	26.0%	25.2%	18.3%	9.2%	22.1%	8.4%
40歳代 (n=184)	73.4%	39.1%	27.2%	40.2%	26.6%	24.5%	9.2%	13.0%	7.6%
50歳代 (n=187)	69.0%	52.4%	28.3%	25.1%	23.0%	17.6%	9.1%	9.1%	8.6%
60歳代 (n=242)	64.9%	54.1%	24.4%	14.9%	20.2%	14.9%	9.5%	4.5%	8.3%
70歳代 (n=105)	45.7%	59.0%	23.8%	11.4%	20.0%	9.5%	15.2%	1.9%	14.3%
80歳以上 (n=65)	46.2%	58.5%	24.6%	9.2%	23.1%	9.2%	16.9%	1.5%	12.3%
綾北地域 (n=154)	62.3%	40.9%	30.5%	19.5%	22.1%	18.2%	11.7%	14.3%	8.4%
寺尾地域 (n=214)	57.9%	46.7%	28.0%	23.4%	20.1%	13.6%	13.6%	12.6%	9.3%
早園地域 (n=131)	73.3%	53.4%	28.2%	28.2%	24.4%	19.1%	6.9%	3.8%	3.1%
綾西地域 (n=112)	60.7%	52.7%	27.7%	17.0%	19.6%	13.4%	10.7%	9.8%	9.8%
中央地域 (n=161)	71.4%	50.3%	21.7%	27.3%	24.2%	18.6%	10.6%	6.2%	9.9%
綾南地域 (n=171)	69.0%	47.4%	23.4%	22.8%	26.3%	18.7%	7.6%	7.6%	12.3%

世代別では、「自宅、職場、学校に近いから」は20歳代以下から40歳代までが多い。「前から診てもらっている」は70歳代以上が多い。「土日に診療している」と「待ち時間が短い」は40歳代が多い。「診療科がそろっている」は70歳代以上が多い。「口コミ」は30歳代が多い。「紹介されたから」は70歳代以上が多い。

問19. 外来診療の際の普段の通院手段について教えてください。
(あてはまるものすべて)

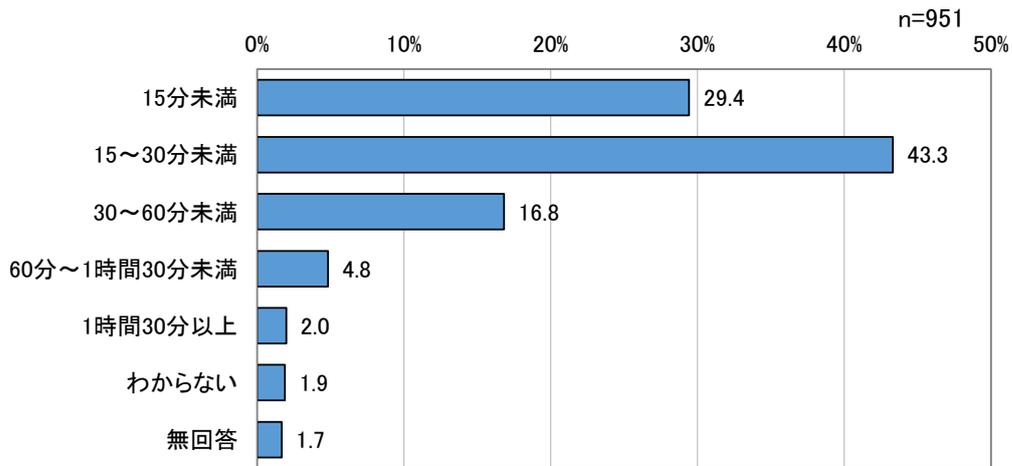


「自分で通院(徒歩、自転車、自家用車などを使用)」86.3%、「家族が運転する自家用車」20.1%、「路線バス」12.0%、「鉄道」10.8%、「タクシー」4.1%、「コミュニティバス」3.4%、その他 0.6%となっている。

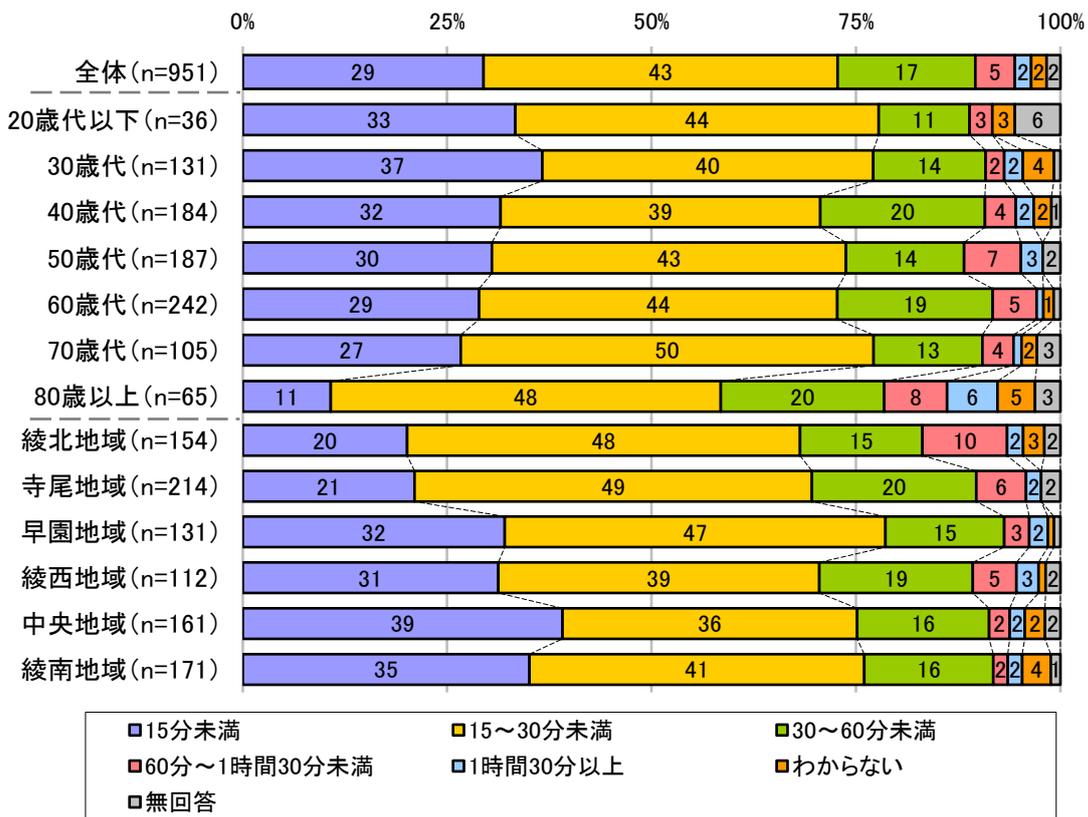
区分	自分で	自家用車	路線バス	鉄道	タクシー	コミュニティ
全体 (n=951)	86.3%	20.1%	12.0%	10.8%	4.1%	3.4%
20歳代以下 (n=36)	72.2%	47.2%	8.3%	5.6%	8.3%	2.8%
30歳代 (n=131)	88.5%	20.6%	12.2%	14.5%	1.5%	1.5%
40歳代 (n=184)	92.9%	21.2%	11.4%	10.9%	3.8%	2.2%
50歳代 (n=187)	90.9%	11.2%	7.5%	9.6%	3.2%	3.2%
60歳代 (n=242)	89.3%	17.8%	11.6%	8.7%	3.3%	2.9%
70歳代 (n=105)	81.0%	15.2%	14.3%	12.4%	3.8%	6.7%
80歳以上 (n=65)	55.4%	43.1%	26.2%	15.4%	13.8%	7.7%
綾北地域 (n=154)	84.4%	23.4%	11.0%	16.9%	5.2%	3.2%
寺尾地域 (n=214)	84.6%	21.5%	16.4%	15.9%	6.5%	4.7%
早園地域 (n=131)	90.1%	13.7%	8.4%	5.3%	0.8%	0.0%
綾西地域 (n=112)	87.5%	14.3%	11.6%	3.6%	5.4%	3.6%
中央地域 (n=161)	88.8%	22.4%	11.8%	11.2%	1.9%	3.1%
綾南地域 (n=171)	84.2%	21.6%	10.5%	7.6%	4.1%	4.7%

世代別では、「家族が運転する自家用車」は20歳代以下と80歳以上が多い。「路線バス」は80歳以上が多い。「鉄道」は80歳以上が多い。「タクシー」は20歳代以下と80歳以上が多い。コミュニティバスは70歳代以上が多い。地域別では、「鉄道」が綾北地域と寺尾地域が多い。コミュニティバスの利用について早園地域は0%である。

問 2 0 . 外来診療の際の通院時間について教えてください。(あてはまるものすべて)

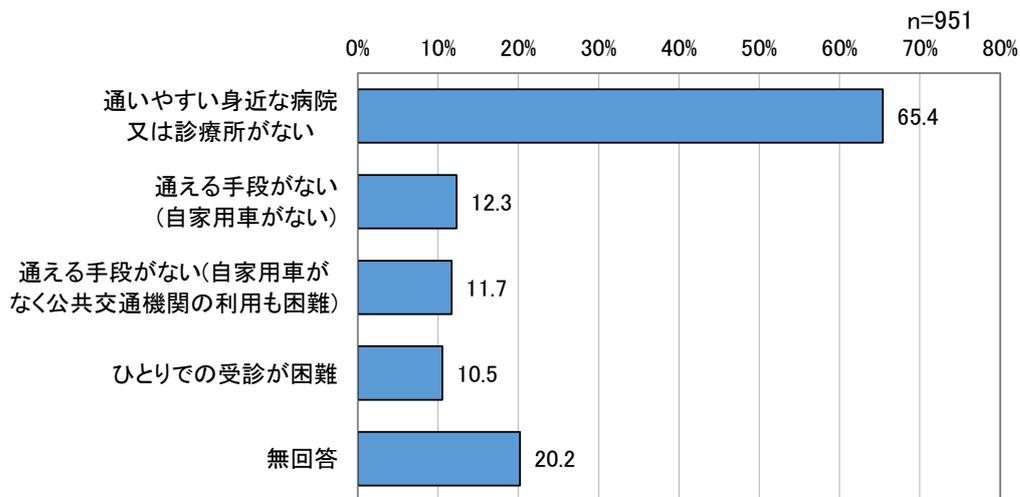


「15~30分未満」43.3%、「15分未満」29.4%、「30~60分未満」16.8%、「60分~1時間30分未満」4.8%、「1時間30分以上」2.0%、「わからない」1.9%となっている。



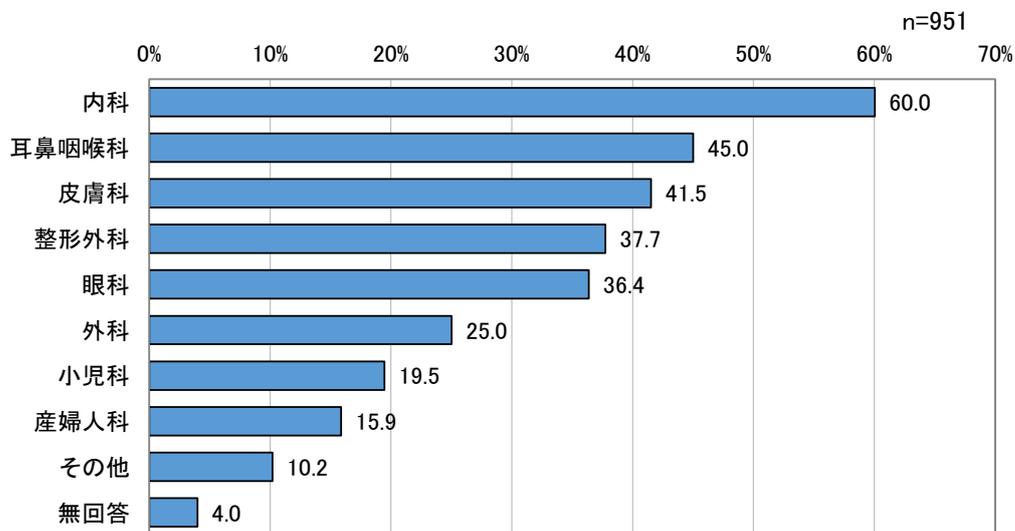
80歳以上では通院時間が長い傾向がみられる。

問 2 1. 外来受診を困難にする要因は何ですか。(あてはまるものすべて)



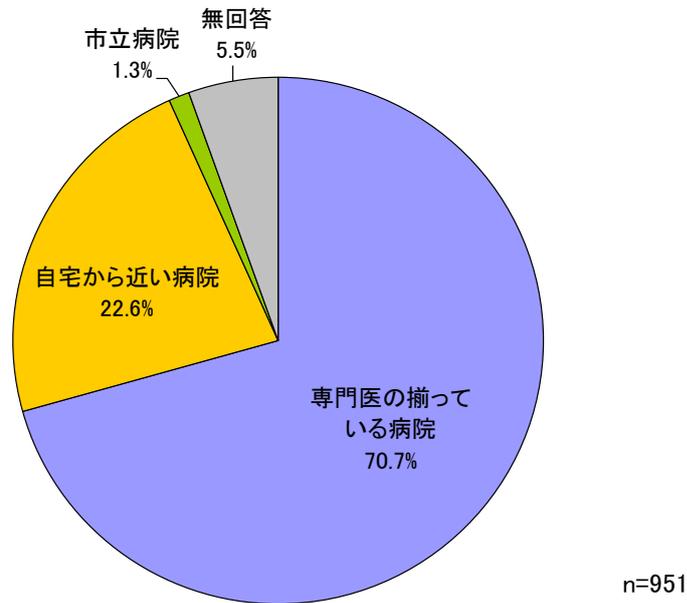
「通しやすい身近な病院又は診療所がない」65.4%、「通える手段がない(自家用車がない)」12.3%、「通える手段がない(自家用車がなく公共交通機関の利用も困難)」11.7%、「ひとりでの受診が困難」10.5%となっている。

問 2 2. 外来診療において今後どの診療科目の充実が望ましいと考えますか。
(あてはまるものすべて)

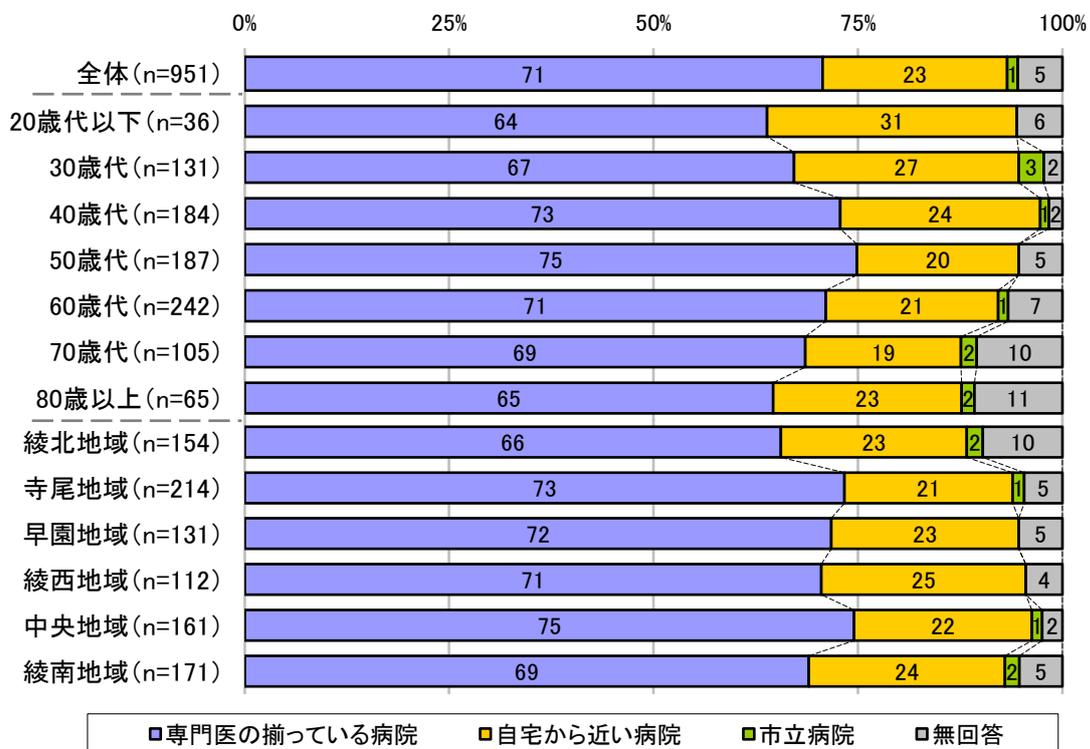


「内科」60.0%、「耳鼻咽喉科」45.0%、「皮膚科」41.5%、「整形外科」37.7%、「眼科」36.4%、「外科」25.0%、「小児科」19.5%、「産婦人科」15.9%、その他 10.2%となっている。

問23. 診療所から病院への紹介状を書いてもらう場合、何を優先したいですか。
(1つを選択)



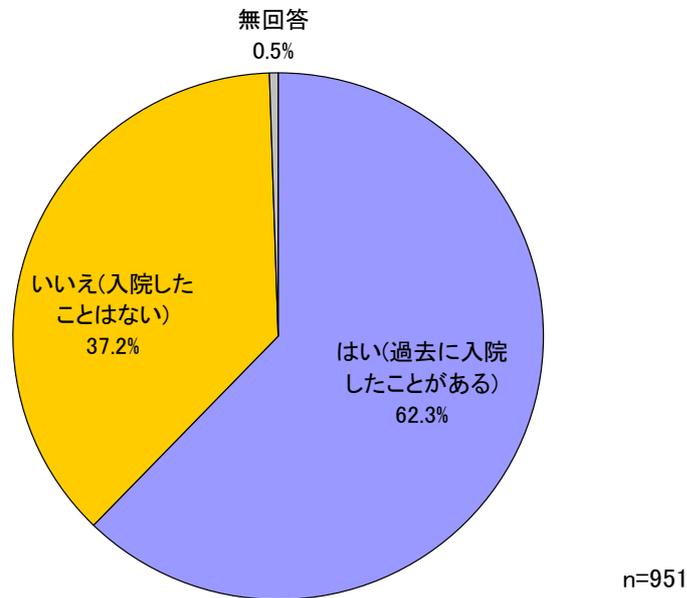
「専門医の揃っている病院」70.7%、「自宅から近い病院」22.6%、「市立病院」1.3%となっている。



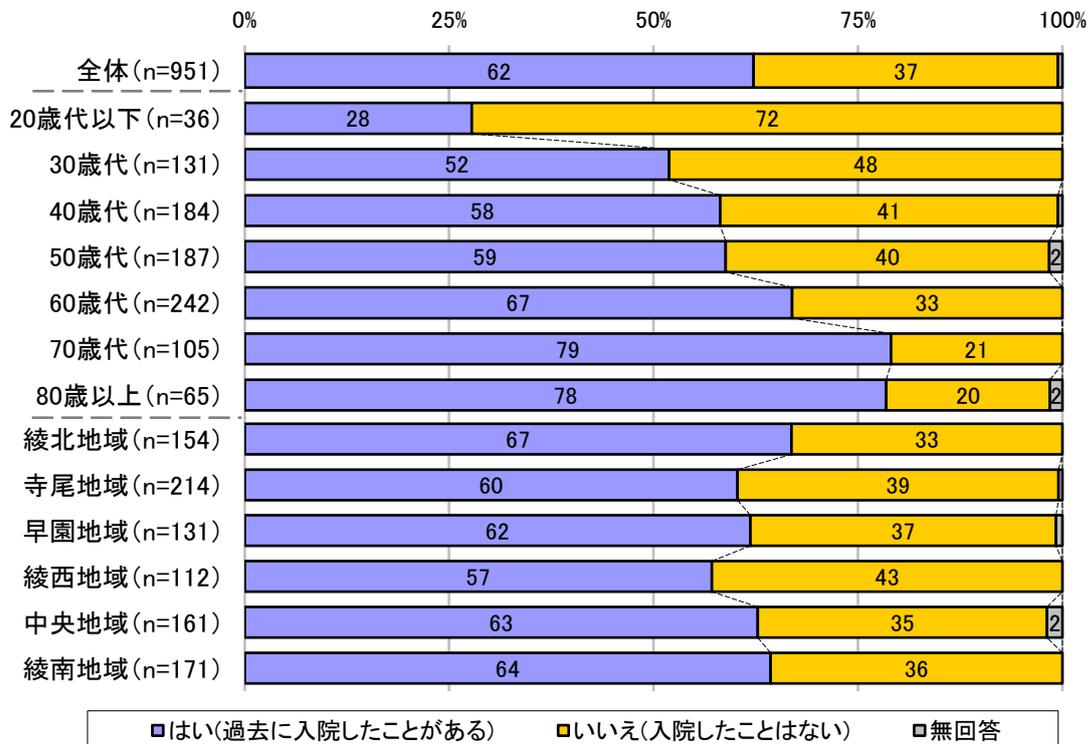
世代別に大きな差はない。

4. 入院したことのある病院について

問 2 4. あなたはこれまでに、病院に入院したことがありますか。(1つを選択)

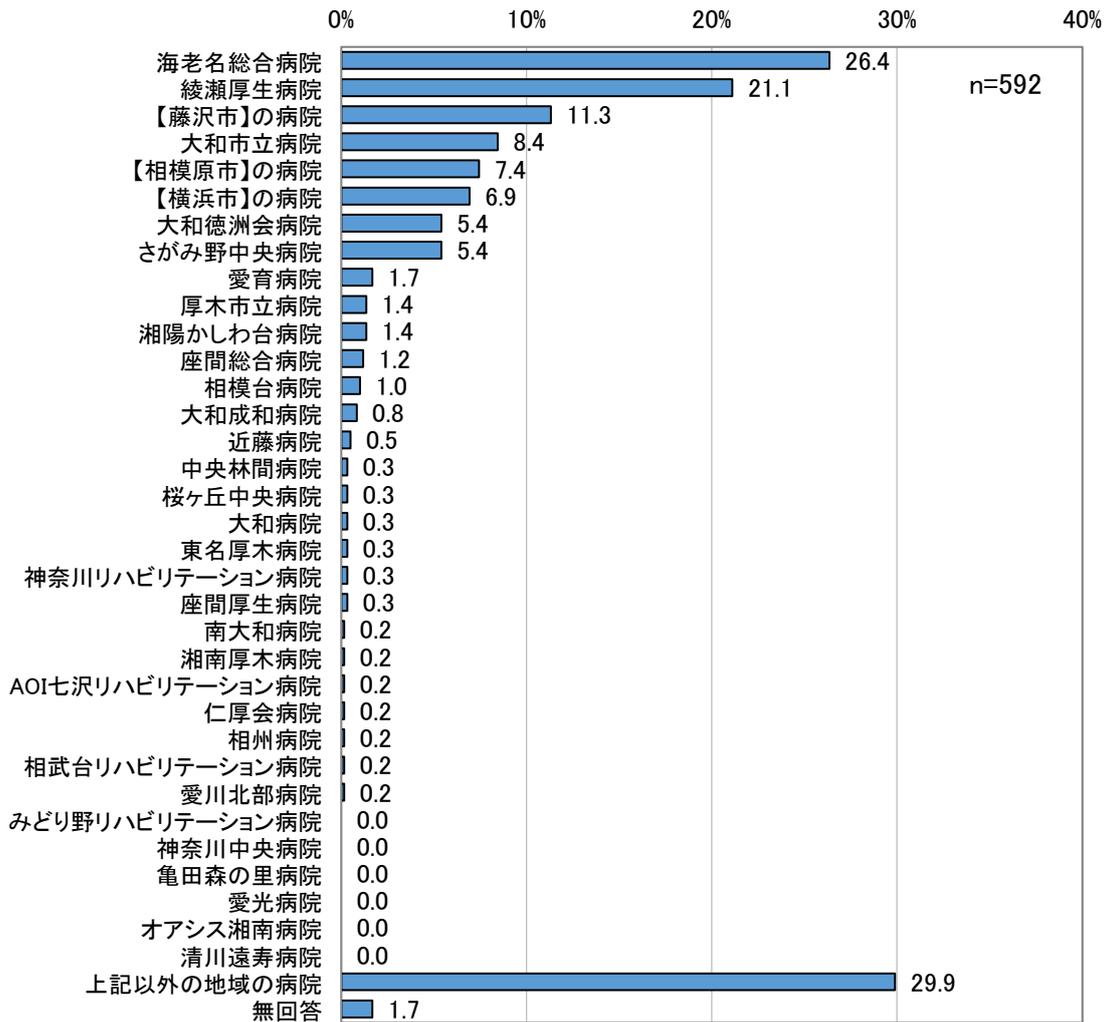


「はい(過去に入院したことがある)」62.3%、「いいえ(入院したことはない)」37.2%となっている。



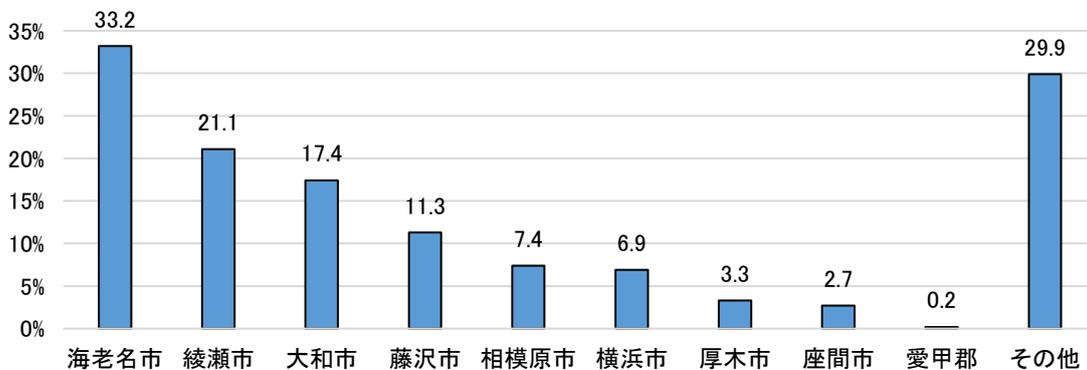
年齢が高くなるにつれて入院経験のある割合が高くなっている。

問 2 4 (付問 1) 入院したことがある病院を教えてください。



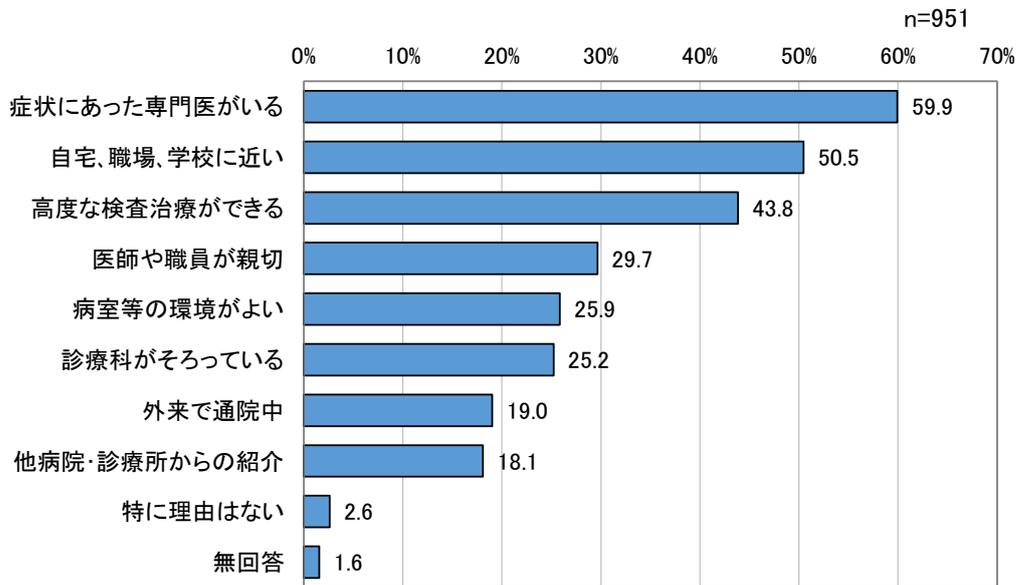
市民が入院したことがある病院で最も多いのは、海老名総合病院 26.4%で次いで綾瀬厚生病院 21.1%、藤沢市の病院 11.3%、大和市立病院 8.4%、相模原市の病院 7.4%、横浜市の病院 6.9%となっている。

入院先病院所在地 (%)



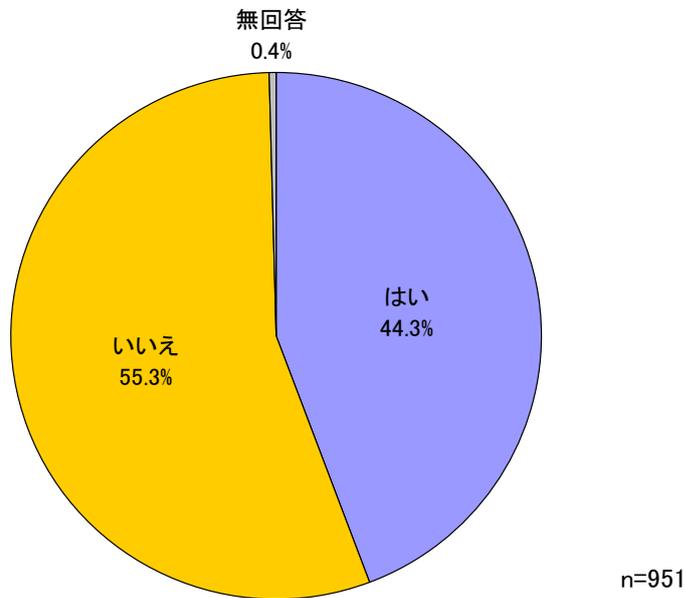
入院先病院の所在地では海老名市 33.2%、次いで綾瀬市 21.1%、大和市 17.4%、藤沢市 11.3%、相模原市 7.4%、横浜市 6.9%となっている。

問 2 5. 入院先の病院を選ぶポイントについて教えてください。
(あてはまるものすべて)

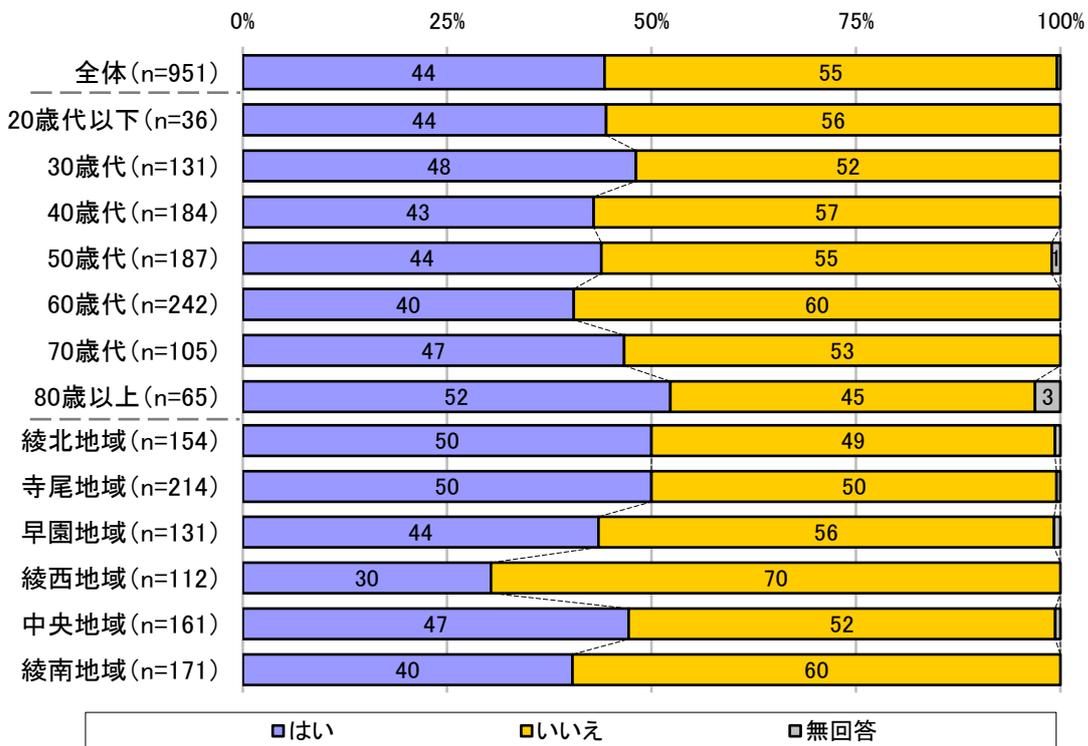


「症状にあった専門医がいる」59.9%、「自宅、職場、学校に近い」50.5%、「高度な検査治療ができる」43.8%、「医師や職員が親切」29.7%、「病室等の環境がよい」25.9%、「診療科がそろっている」25.2%、「外来で通院中」19.0%、「他病院・診療所からの紹介」18.1%、「特に理由はない」2.6%となっている。

問26. 救急車や夜間救急などの急性期医療を利用したことがありますか。
(1つを選択)

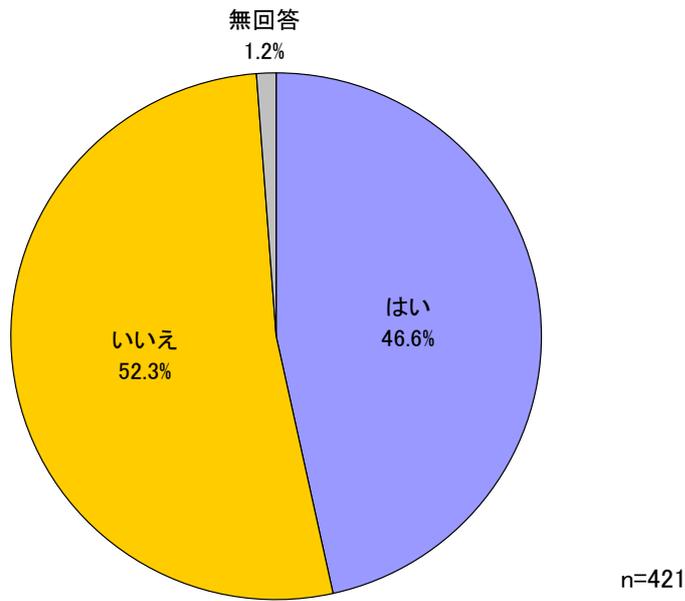


「いいえ」55.3%、「はい」44.3%となっている。

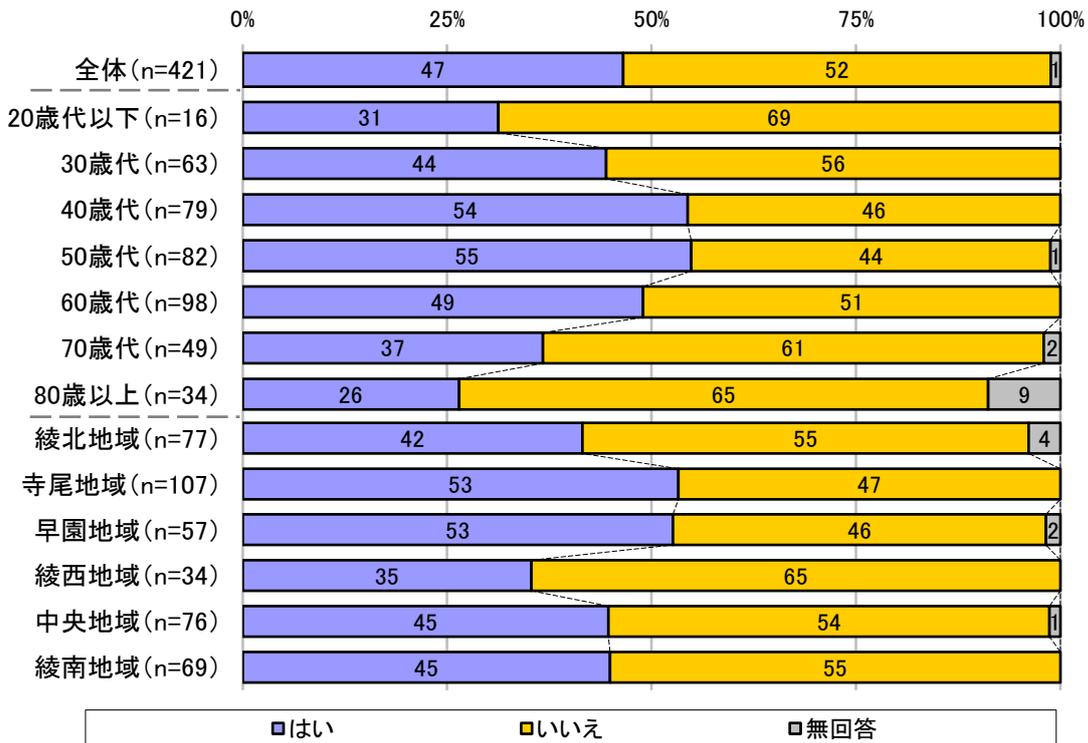


「はい」が80歳代で半数を超えるが、世代間で大きな差はない。

問 2 7. 急性期医療の受診に関して、不便を感じたことはありますか。(1つを選択)

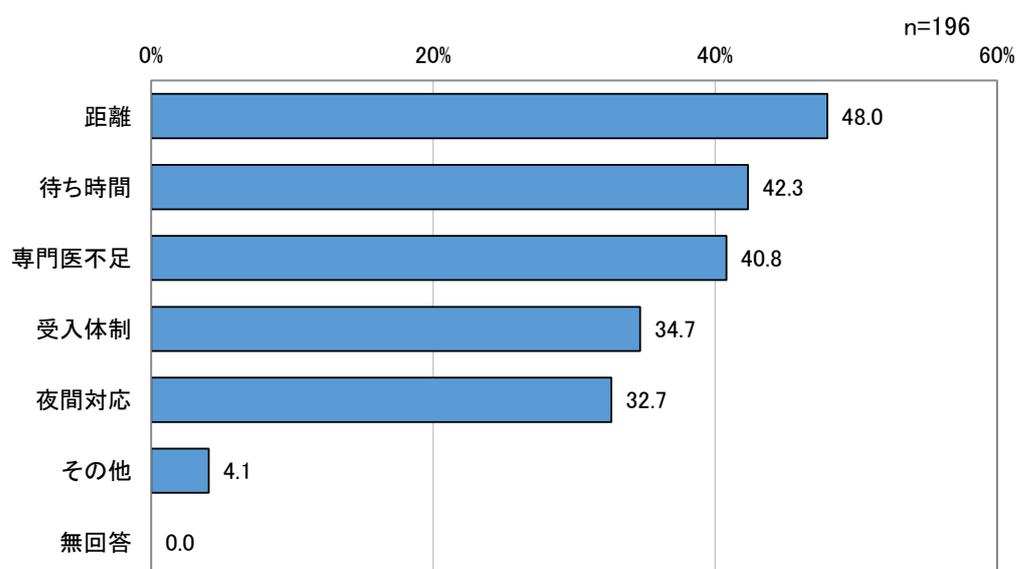


「いいえ」52.3%、「はい」46.6%となっている。



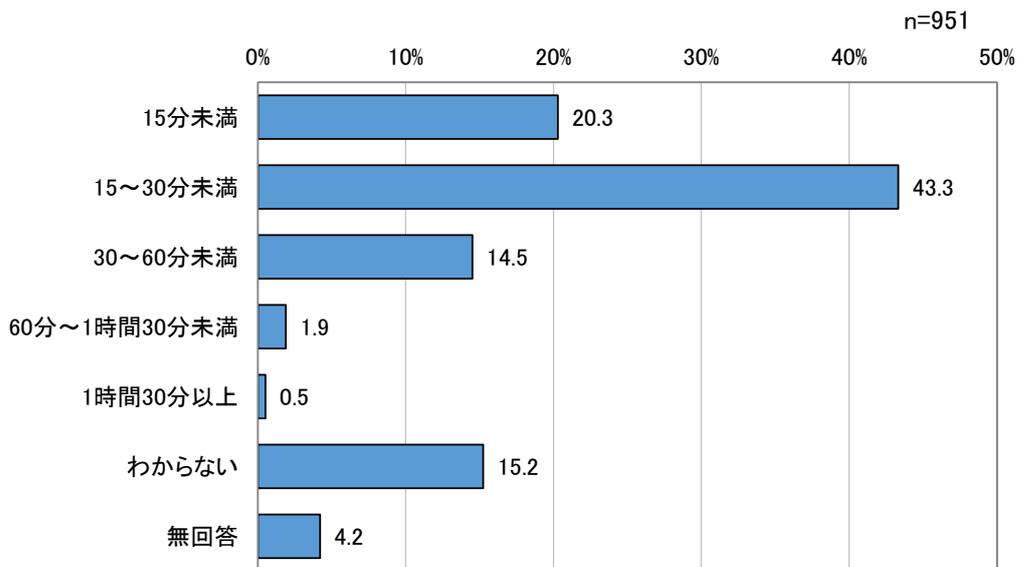
世代別では「はい」は40歳代と50歳代で半数を超えている。また、地域では寺尾地域と早園地域で半数を超えている。

問27（付問1）どのような点に不便を感じましたか。

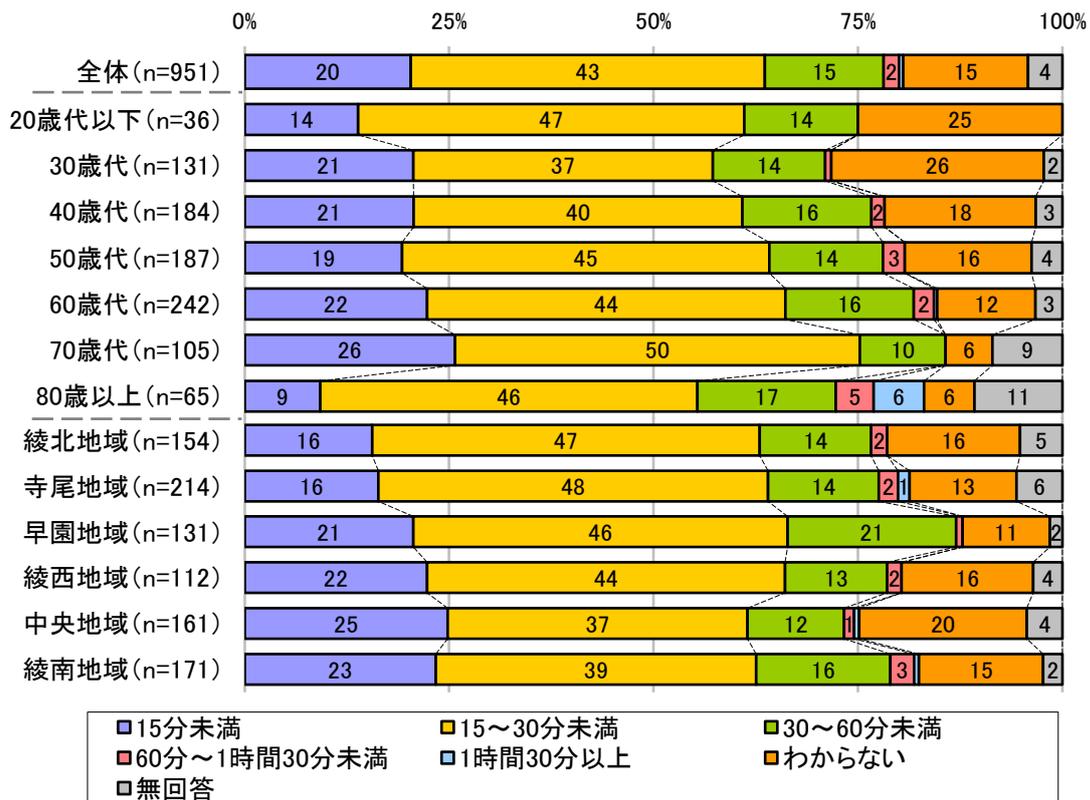


「距離」48.0%、「待ち時間」42.3%、「専門医不足」40.8%、「受入体制」34.7%、「夜間対応」32.7%、その他4.1%となっている。

問 2 8. 現状で最寄りの急性期病院までの所要時間を教えてください。(1つを選択)



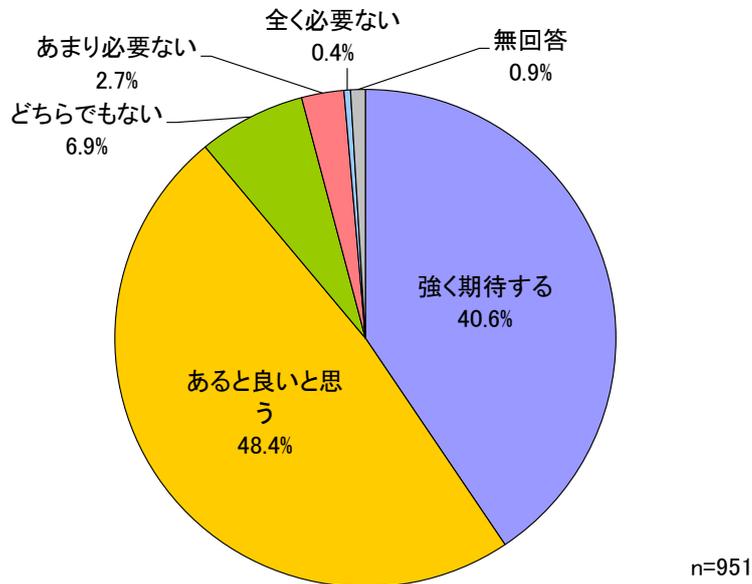
「15~30分未満」43.3%、「15分未満」20.3%、「わからない」15.2%、「30~60分未満」14.5%、「60分~1時間30分未満」1.9%、「1時間30分以上」0.5%となっている。



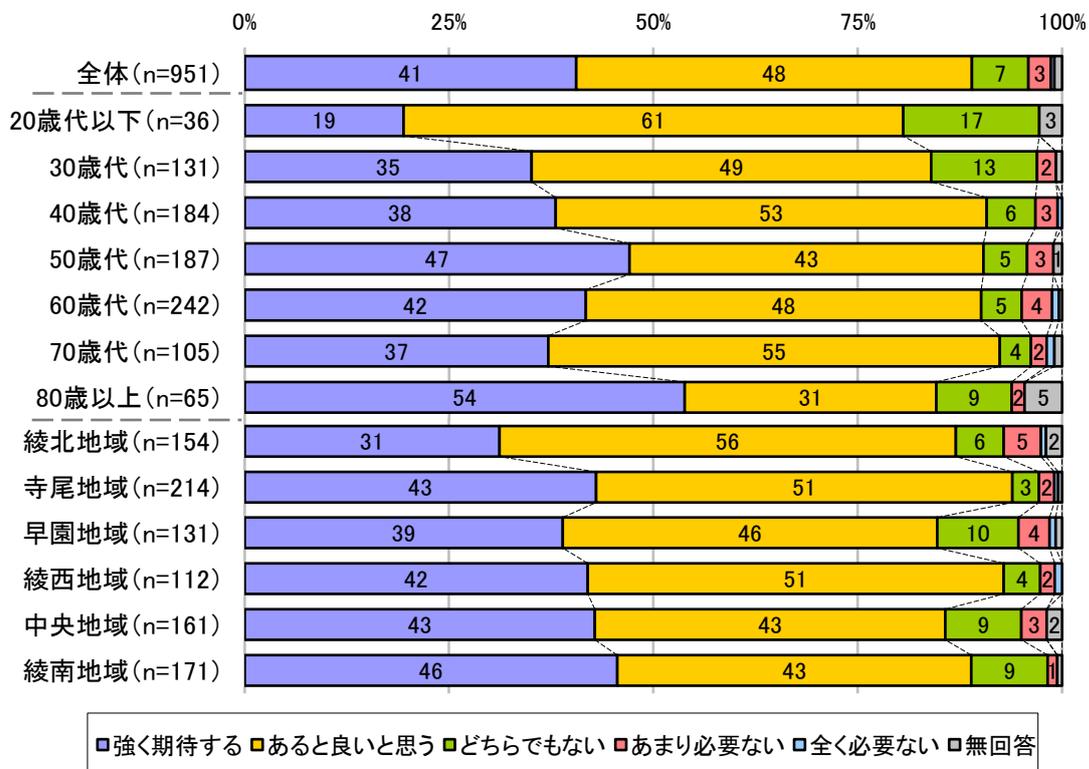
世代別と地域別で大きな差はない。

5. 二次救急医療機関の誘致について

問 2 9. 市内に「二次救急医療機関」が誘致されることについて、どのように思いますか。
(1つを選択)

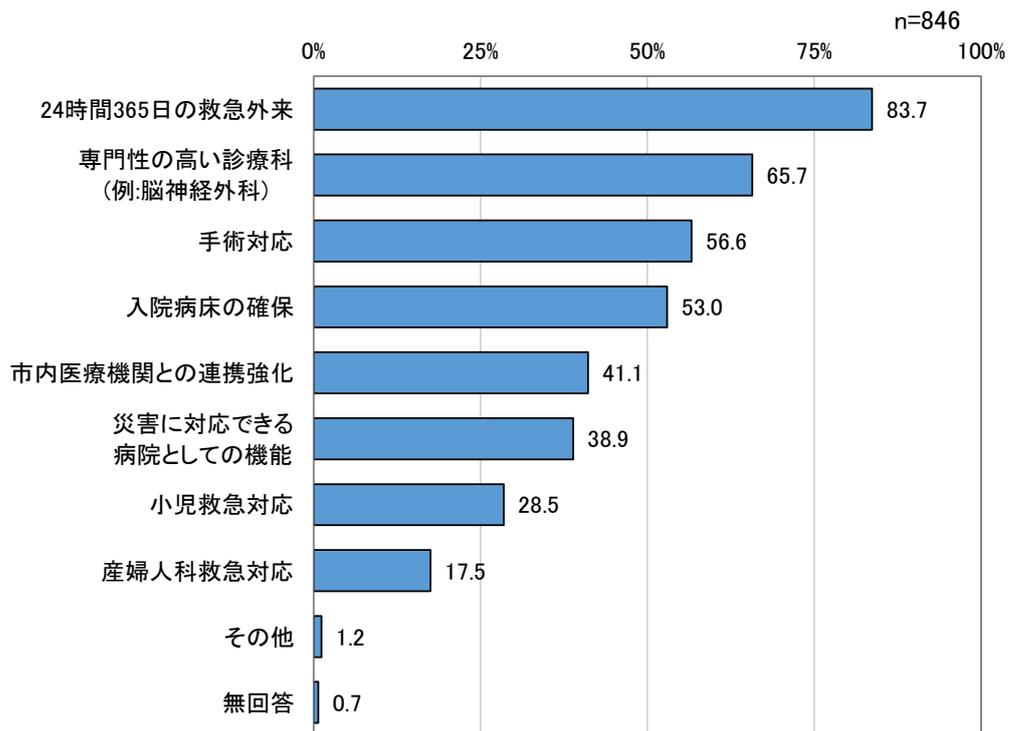


「あると良いと思う」48.4%、「強く期待する」40.6%、「どちらでもない」6.9%、「あまり必要ない」2.7%、「全く必要ない」0.4%となっている。



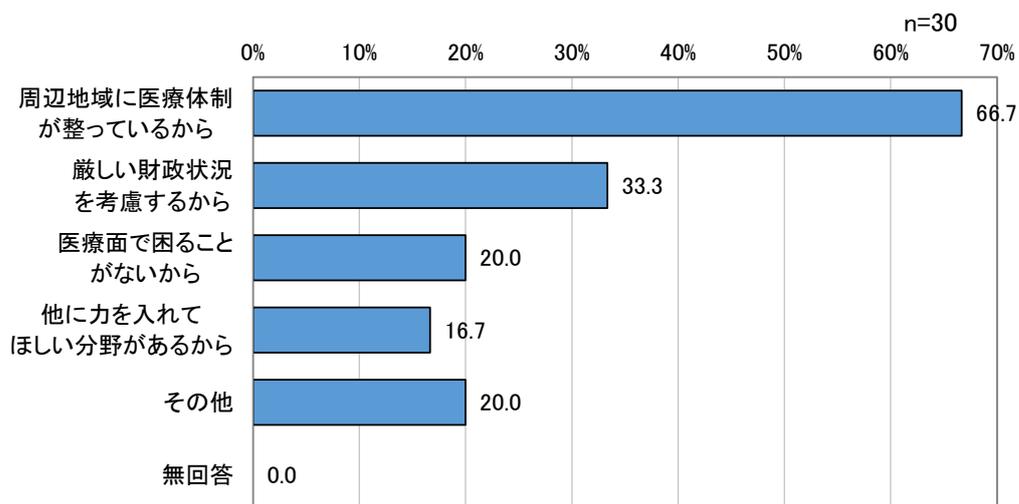
「強く期待する」と「あると良いと思う」の合計が約9割である。特に80歳以上では「強く期待する」が最も多い。地域では寺尾地域と綾西地域が多い。

問 2 9 (付問 1) どのような機能やサービスに期待しますか。



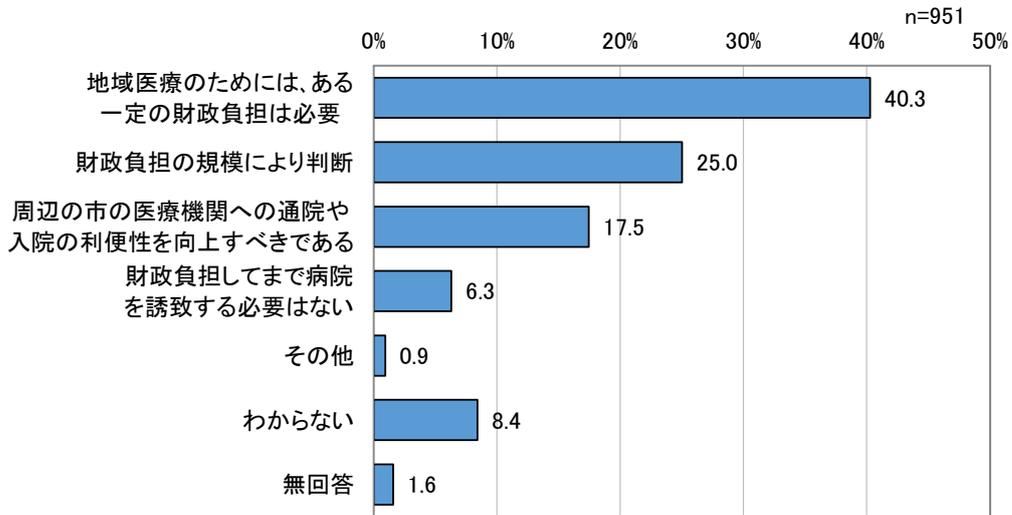
「24 時間 365 日の救急外来」 83.7%、「専門性の高い診療科 (例:脳神経外科)」 65.7%、「手術対応」 56.6%、「入院病床の確保」 53.0%、「市内医療機関との連携強化」 41.1%、「災害に対応できる病院としての機能」 38.9%、「小児救急対応」 28.5%、「産婦人科救急対応」 17.5%、その他 1.2%となっている。

問 2 9 (付問 2) そう思われる理由は何ですか。

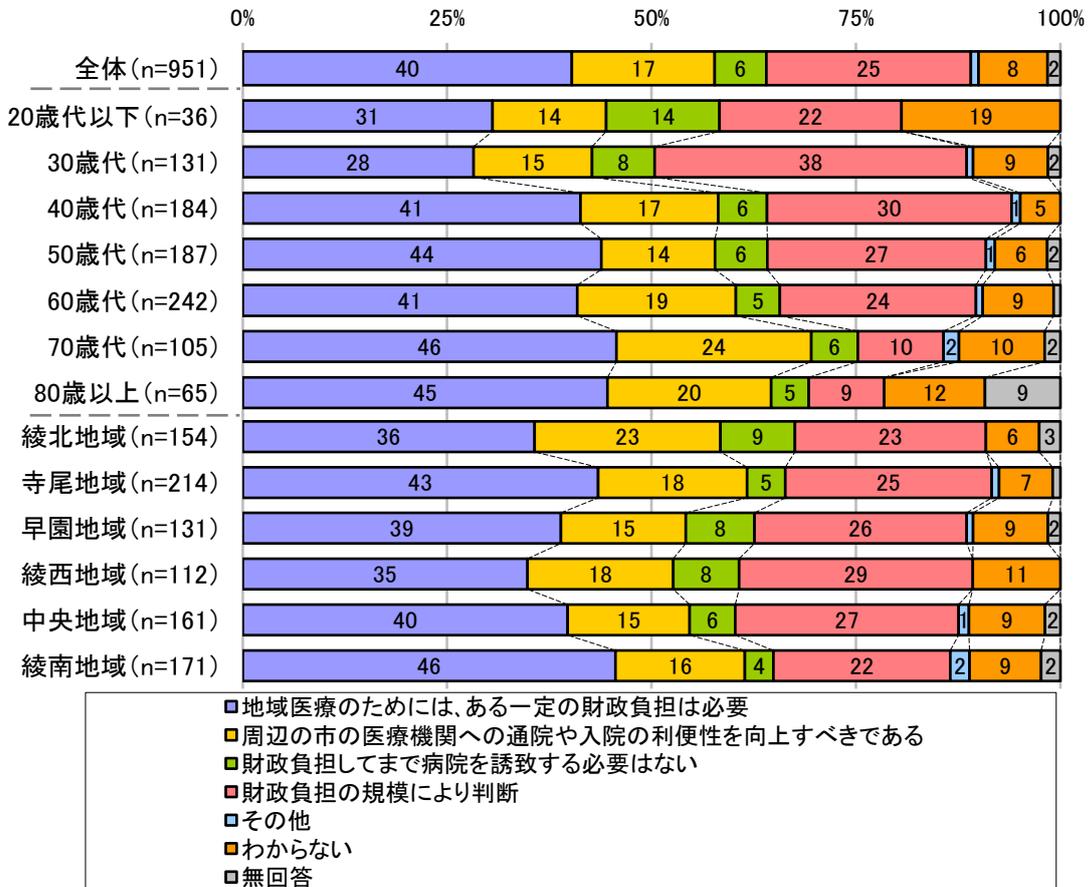


「周辺地域に医療体制が整っているから」 66.7%、「厳しい財政状況を考慮するから」 33.3%、「医療面で困ることがないから」 20.0%、「他に力を入れてほしい分野があるから」 16.7%、その他 20.0%となっている。

問30. 少子高齢化と人口減少が進む中、市内に二次救急医療機関を誘致する際に、一定の財政負担が必要となる可能性があります、あなたのご意見をお聞かせください。(1つを選択)



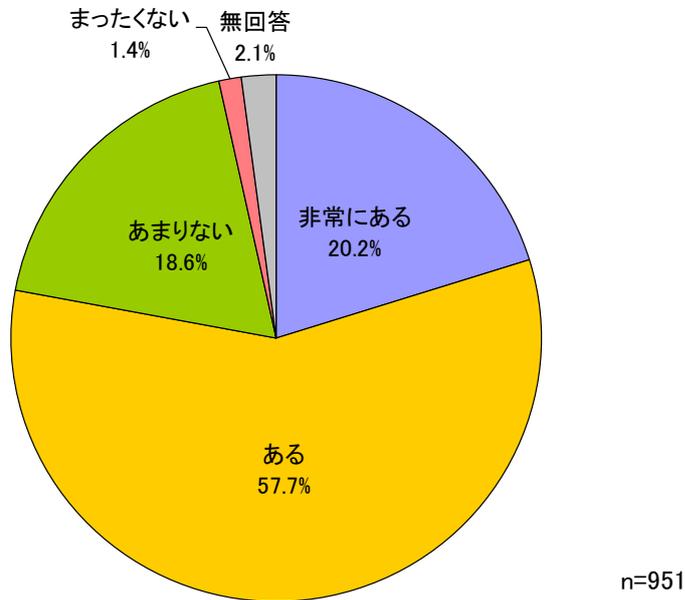
「地域医療のためには、ある一定の財政負担は必要」40.3%、「財政負担の規模により判断」25.0%、「周辺の市の医療機関への通院や入院の利便性を向上すべきである」17.5%、「わからない」8.4%、「財政負担してまで病院を誘致する必要はない」6.3%、その他0.9%となっている。



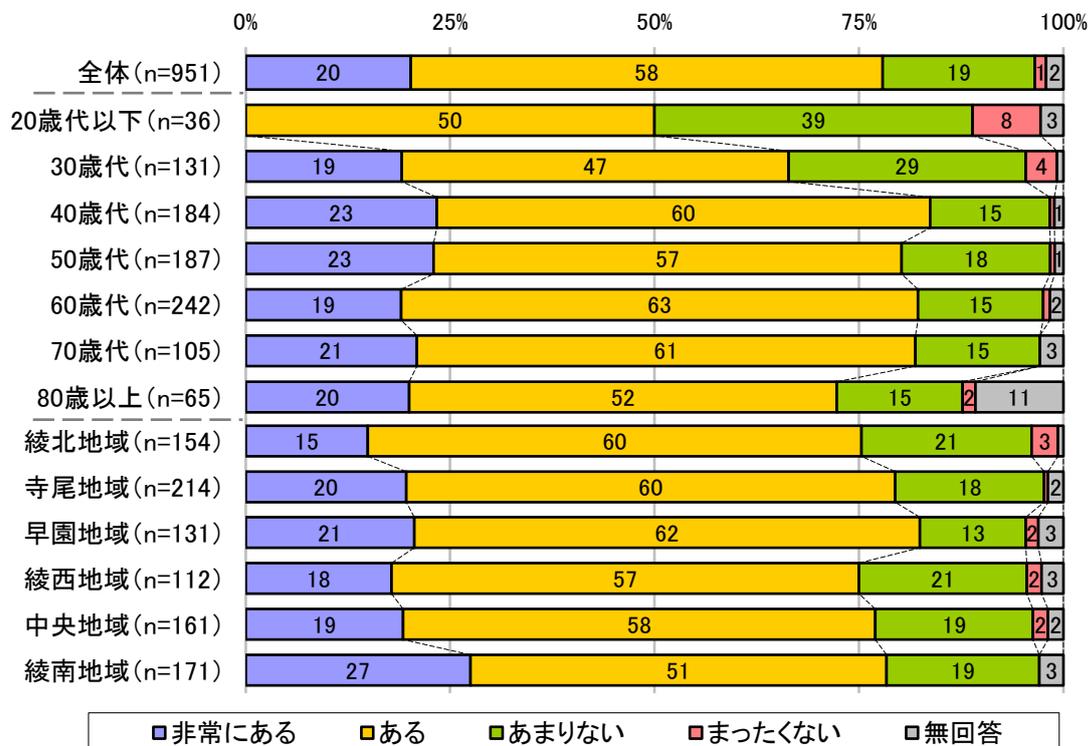
40歳代以上の世代が財政負担の必要性への認識が高い。

6. 綾瀬市の地域医療について

問3 1. 綾瀬市の医療体制整備について関心がありますか。(1つを選択)

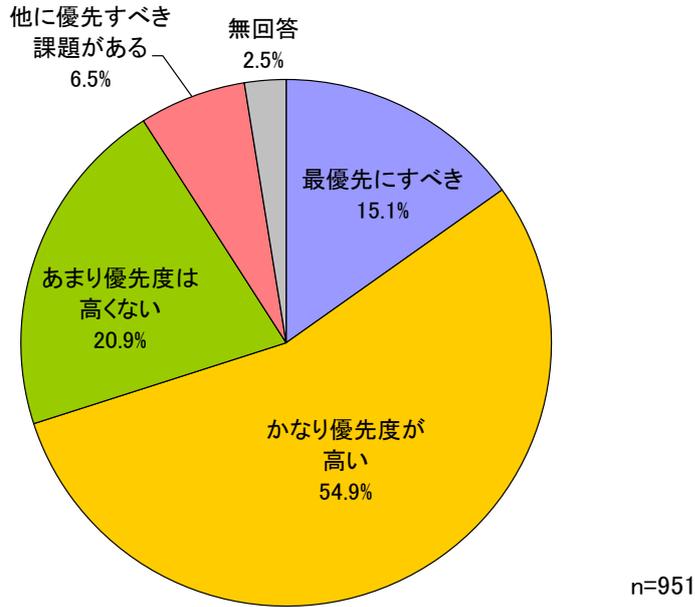


「ある」57.7%、「非常にある」20.2%、「あまりない」18.6%、「まったくない」1.4%となっている。

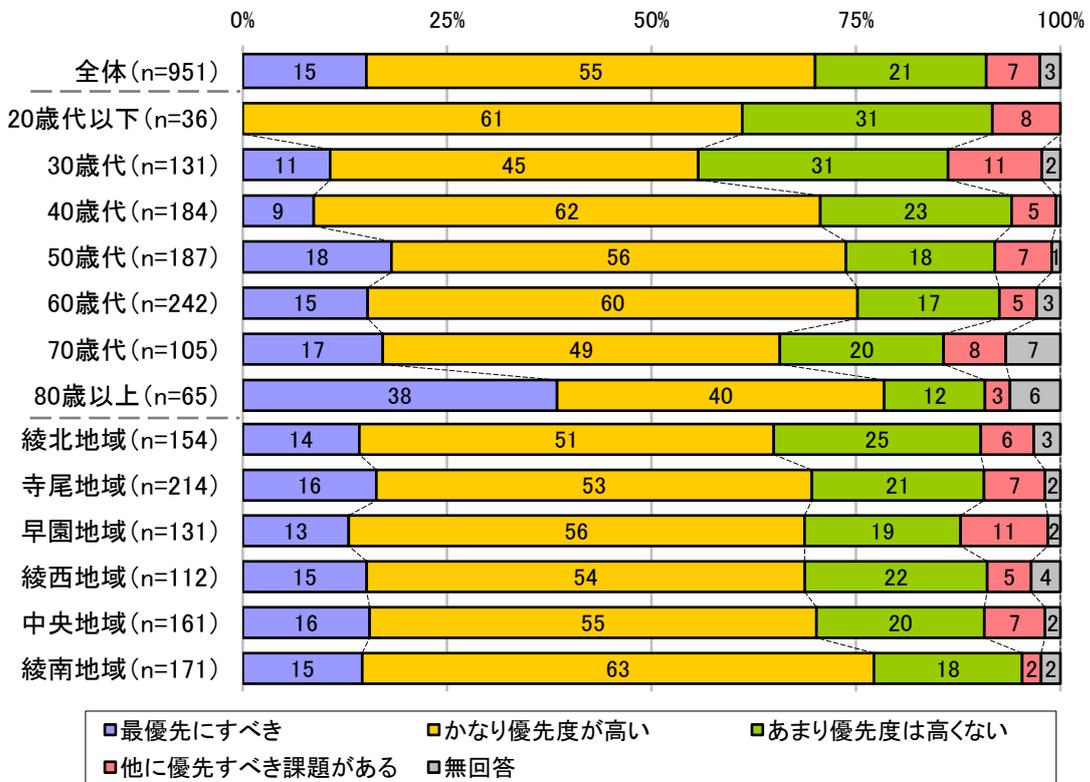


「非常にある」と「ある」の合計は、40歳代から70歳代が多い。

問3 2. 綾瀬市の行政課題の中で、急性期医療体制の強化はどのくらい優先すべきと考えますか。(1つを選択)

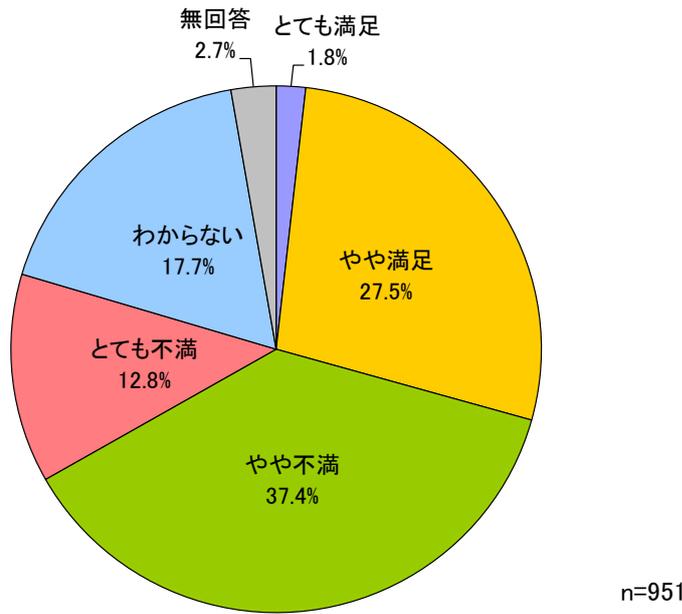


「かなり優先度が高い」54.9%、「あまり優先度は高くない」20.9%、「最優先にすべき」15.1%、「他に優先すべき課題がある」6.5%となっている。

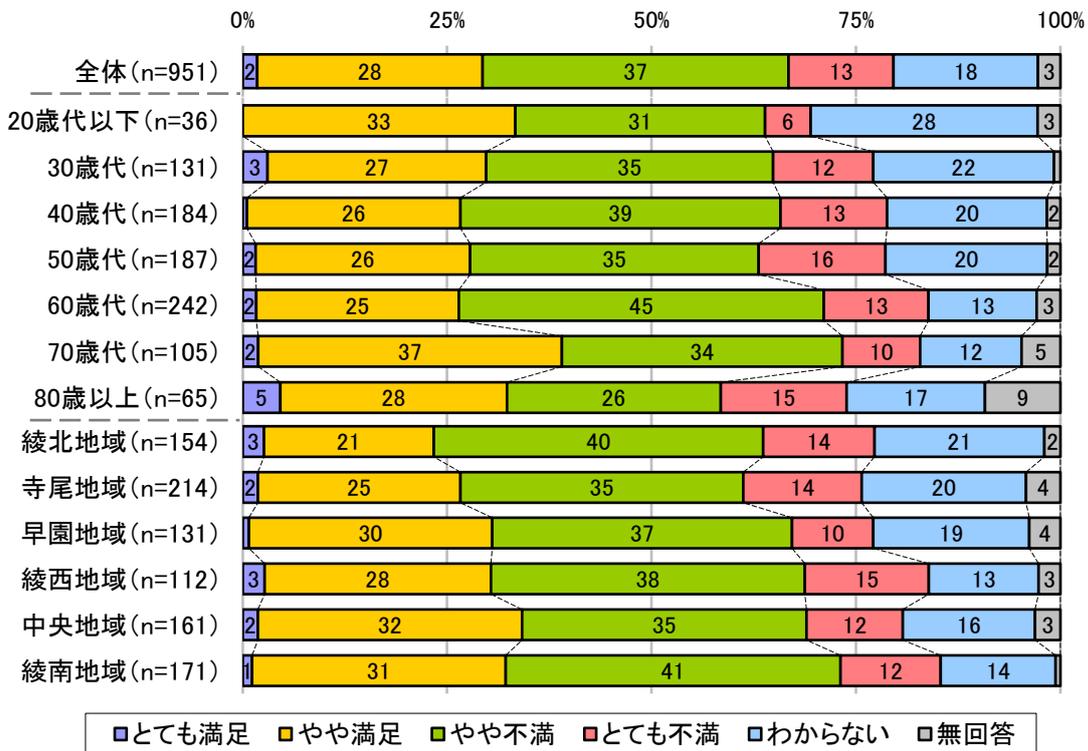


世代別では「最優先にすべき」と「かなり優先度が高い」の合計は、40歳代、50歳代、60歳代、80歳以上で7割を超える。地域では綾南地域、中央地域が7割を超えている。

問3 3. 綾瀬市の医療提供体制についての満足度を教えてください。(1つを選択)

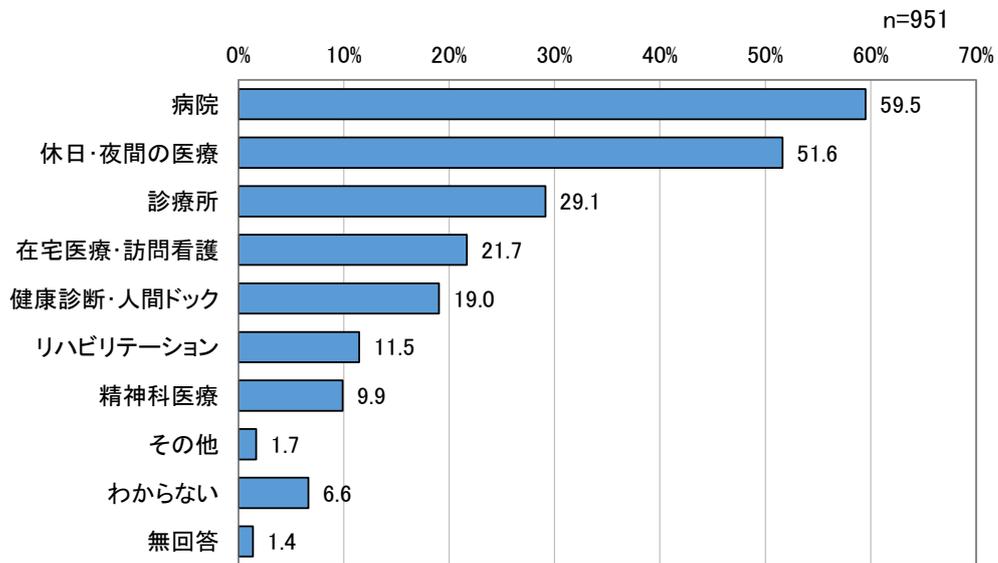


「やや不満」37.4%、「やや満足」27.5%、「わからない」17.7%、「とても不満」12.8%、「とても満足」1.8%となっている。



世代別では「やや不満」と「とても不満」の合計は、40歳代、50歳代、60歳代で5割を超えている。地域では綾北地域、綾西地域、綾南地域が5割を超えている。

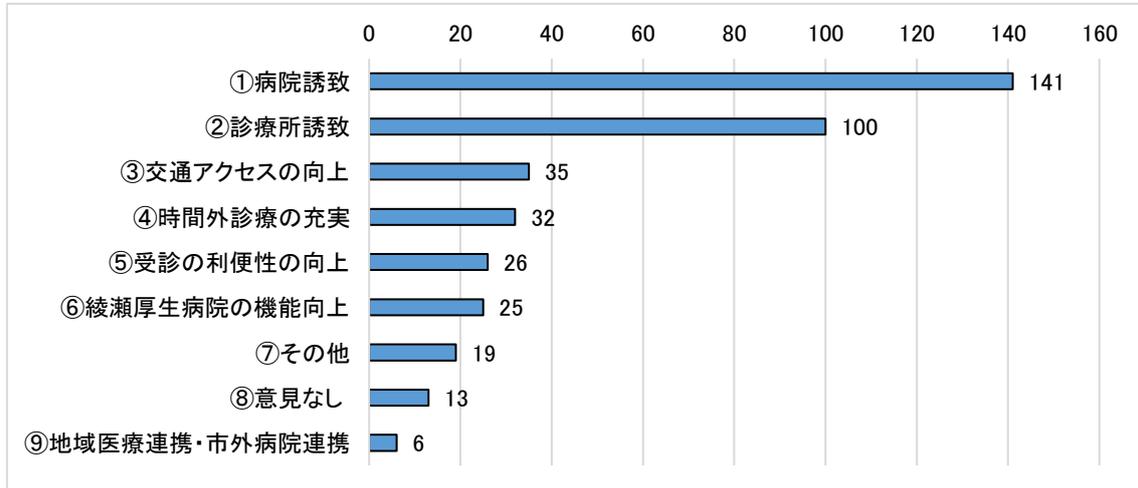
問3 4. 綾瀬市の医療提供体制について今後充実させてほしいものを教えてください。
(1つを選択)



「病院」59.5%、「休日・夜間の医療」51.6%、「診療所」29.1%、「在宅医療・訪問看護」21.7%、「健康診断・人間ドック」19.0%、「リハビリテーション」11.5%、「精神科医療」9.9%、「わからない」6.6%、その他 1.7%となっている。

問35. 綾瀬市の医療提供体制について今後充実させてほしいものについて自由に記載ください。

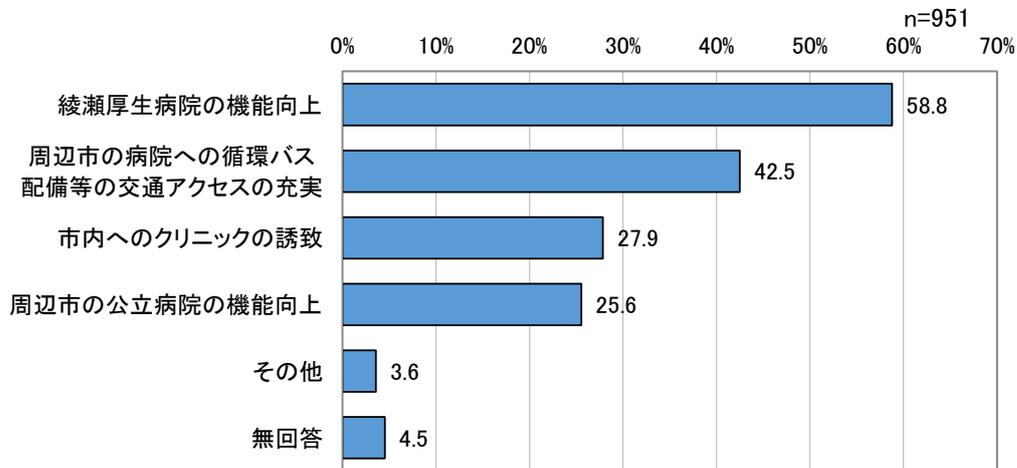
問35の自由記載には951名のうち284名(42%)から回答があった。回答内容を「病院誘致」、「診療所誘致」、「綾瀬厚生病院の機能向上」、「交通アクセスの向上」、「時間外診療の向上」、「受診の利便性の向上」、「地域連携・市外病院との連携の充実」、「地域連携の充実」、「その他」、「特になし」の9つのカテゴリーに分類して集計した。



- 回答者の意見が複数にまたがることもあり、集計数は397となった。最も多いのは、総合病院、専門診療に対応する「病院の誘致」であり、市立病院を要望する意見も含めて集計した。
- 次に、開業医の高齢化で閉院が進んでいる「診療所の誘致」で、診療科としては耳鼻咽喉科、眼科、小児科等への要望が多い。
- 医療提供体制以外では、医療機関までのバスやコミュニティバスの増便等の「交通アクセスの向上」が指摘されている。
- 医療機関への受診については、休日・夜間対応、外来受診の際の待ち時間、駐車場等の「利便性の向上」について意見が寄せられている。
- 市内唯一の病院である「綾瀬厚生病院の機能向上」については、診療科の充実、受診環境やサービスの向上、老朽化への対応等が指摘されている。
- 「その他」の意見としては、医療費負担、健康診断・ドック、予防医療、医療機関の情報の提供等への意見が寄せられている。
- 「市外病院との連携の充実」は、隣接する市（海老名市、大和市、藤沢市等）の病院への受診の利便性の向上についての意見がみられる。
- 「地域医療の充実」は、病院と診療所の地域連携の強化を望む意見がみられる。

7. 地域医療の向上について

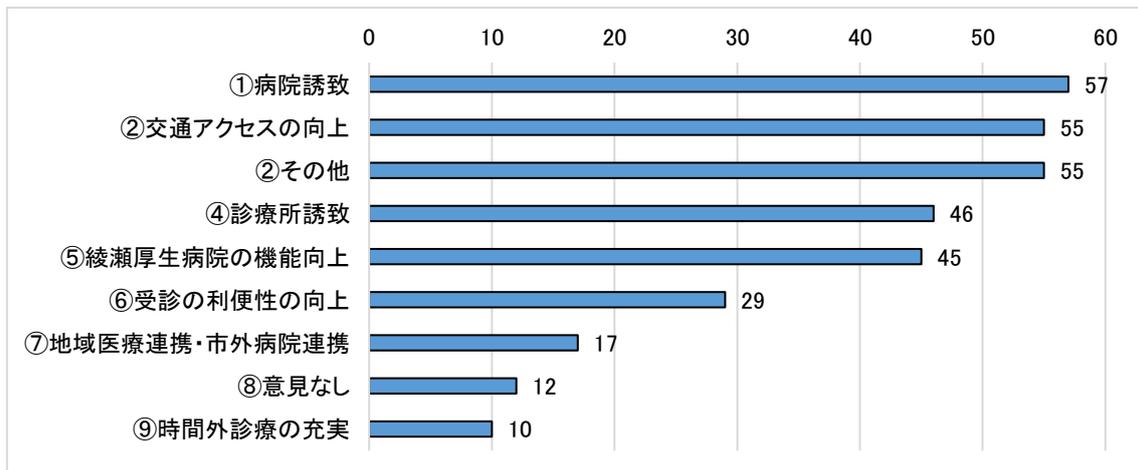
問36. 綾瀬市の地域医療の向上について二次救急医療機関誘致以外に望む項目について教えてください。(あてはまるものすべて)



「綾瀬厚生病院の機能向上」58.8%、「周辺市の病院への循環バス配備等の交通アクセスの充実」42.5%、「市内へのクリニックの誘致」27.9%、「周辺市の公立病院の機能向上」25.6%、その他3.6%となっている。

問37 綾瀬市の地域医療の向上のために必要だと思うことについて自由に記載ください。

問37の自由記載には951名のうち267名(28%)から回答があった。回答内容は、問35と同様に9つのカテゴリーに分類して集計した。



- こちらも回答者の意見が複数にまたがることから集計数は、332となった。問35と同様に「病院誘致」が最も多い。
- 「その他」として在宅医療、訪問看護、健診、リハビリテーションの充実等幅広い意見が寄せられている。
- また、問35に比べて「交通アクセスの向上」を望む意見の割合が多い。
- 上記以外については、問35と類似した意見が多い。

Ⅲ 調査結果の要約

有効回収率は47.6%であり、市民の地域医療に対する関心の高さがうかがえる。

【回答者の属性】

- 市内の16地域について調査を実施した。質問によってはエリア別の傾向を把握するため、16地域を綾北、寺尾、早園、綾西、中央、綾南の6つの地域に分類して集計した。
- 世代別では、20歳代以下から10歳刻みで、80歳以上までの7区分に分けた回答を用いて、世代ごとの傾向を分析した。
- 加入している健康保険は、約6割が社会保険、約3割が国民健康保険で、この2つで全体の約9割を占めている。
- 回答者のうち、かかりつけ医は54.6%、かかりつけ歯科医は66.1%、かかりつけ薬局は40.1%が存在すると回答しており、かかりつけ医とかかりつけ歯科医は半数を超えている。
- 今後の高齢化に伴い、需要が増加すると予想される在宅医療については、「知っている」40.9%、「聞いたことがある」45.3%の合計が86%を超えており、市民の関心の高さが読み取れる。
- 医療機関の情報収集手段として全世代でインターネットが広く利用されており、今後の医療情報の普及においてもインターネットの役割は大きいと考えられる。

【地域医療の理解と普及について】

- 医療資源の適正化のために推進されている医療機関の機能分化に関する理解度として、「知っている」と「聞いたことがある」の合計は約5割から6割である。特に、50歳代と60歳代で理解度が高い傾向がみられる。

【日常の医療機関（病院、診療所）への受診状況について】

- 過去1年間の医療機関受診回数は、「年1～5回」が最も多く、全体の約4割を占める。年齢が高いほど受診回数も増える傾向がある。
- 外来診療を受ける医療機関は、綾瀬市の地理的条件（隣接市と接していること）から、綾瀬市63.6%を中心に、西南の海老名市17.6%、南部の藤沢市7.0%、大和市6.2%となっている。
- 外来受診先を選ぶ理由として、「自宅、職場、学校に近いから」が最も多く、65.5%が回答している。この結果、市民は一次医療機関の近接性を重視していることが分かる。
- 外来受診における困難な要因としては、「通いやすい身近な病院又は診療所がない」が最も多く、65.4%が選んでいる。これにより、医療機関の近接性が求められていることが示されている。
- 外来診療で充実が期待される診療科目は、①内科60.0%、②耳鼻咽喉科45.0%、③皮膚科41.5%、④整形外科37.7%、⑤眼科36.4%である。今後、一次医療機関

の誘致を進める際には、これらの傾向を参考とする必要がある。

- 診療所から病院への紹介で重視される点は、全世代で「専門医がそろっている病院」が70.7%と最も高い。

【入院したことのある病院について】

- 入院したことのある病院は、多い順で①海老名総合病院26.4%、②綾瀬厚生病院21.1%、③藤沢市の病院11.3%、④大和市立病院8.4%、⑤相模原市の病院7.4%となっており、外来受診と同様に隣接する市への流出の傾向がみられる。
- 入院先の病院を選ぶポイントで最も多いのは、「症状にあった専門医がいる」59.9%で、紹介状で重視されるポイントと一致している。
- 急性期医療受診時の不便と感じる点で最も多いのは「距離」48.0%であり、市内に急性期病院が不足していることが原因と考えられる。

【二次救急医療機関の誘致について】

- 二次救急医療機関の市内への誘致については、「強く期待する」40.6%、「あると良いと思う」48.4%で、合計で約9割の回答者が希望している。特に80歳以上では「強く期待する」54.0%と最も高い期待度を示している。
- 誘致を希望する回答者が期待する機能は、「24時間365日の救急外来」83.7%、「専門性の高い診療科」65.7%が多い。
- 一方で誘致を望まない理由として選んでいるのは、「周辺地域に医療体制が整っているから」66.7%、「厳しい財政を考慮するから」33.3%が多い。
- 病院誘致に伴う財政負担について多く選ばれた回答は、「地域医療のためにはある一定の財政負担は必要」40.3%、「財政負担の規模により判断」25.0%であり、合計で約6割以上の回答者が一定規模の財政負担を容認している。世代別では、特に40歳代以上が財政負担の必要性に理解を示している。

【綾瀬市の地域医療について】

- 綾瀬市の医療体制整備への関心は、「非常にある」20.2%、「ある」57.7%で、合計約8割弱を占める。特に40歳代から70歳代で関心が高い。
- 急性期医療体制の強化については、「最優先すべき」15.1%、「かなり優先度が高い」54.9%で、約7割が優先すべきと回答しており、40歳代以上で特に高い。
- 医療提供体制への満足度は、「とても不満」12.8%、「やや不満」37.4%の合計約5割で、「とても満足」1.8%、「やや満足」27.5%の合計約3割を大きく上回る。
- 医療提供体制の充実については、「病院」59.5%、「休日・夜間の医療」51.6%の割合が高い。

【地域医療の向上について】

- 二次救急医療機関の誘致以外で望まれる地域医療体制の向上は、「綾瀬厚生病院の機能向上」58.8%と、「周辺市の病院への循環バス配備など交通アクセスの充実」42.5%が多い。

IV 調査結果の考察と施策への反映

アンケート調査結果から、病院誘致、診療所誘致、交通アクセスの向上、綾瀬厚生病院の機能向上等へ市民の関心が高い傾向がみられる。これらの項目は相互に関連性もあることから、市の医療提供体制への市民の満足度を高めるためには、総合的な視野で施策として取り組んでいく必要がある。

【病院誘致】

考察

- ▶ 綾瀬市が属する二次保健医療圏である県央医療圏においては、2025年4月時点で既存病床数が基準病床数を95床上回っており、病院の新設や他の二次保健医療圏からの移転は認められていない。
- ▶ 病院誘致を希望する市民の意見として、「綾瀬市立病院の新設」や「三次医療を担う大学病院」の誘致を求める声も散見される。しかしながら、市立病院の新設や他の二次保健医療圏からの大学病院の誘致は、今後の医療行政の動向を踏まえると困難である。このため、こうした状況について、市民に対し継続的に啓発していくことが重要である。
- ▶ 病院誘致の選択肢としては、県央医療圏内において、施設の老朽化や狭隘化が進み、かつ現地で建替えや増改築に課題を抱える病院が候補として想定される。ただし、病院側に綾瀬市への移転意向があるかどうか大きな要素となる。加えて、候補となる病院には、救急医療に関する実績も求められる。
- ▶ 県央医療圏内の誘致候補病院については、移転に関する意向のヒアリングを行い、綾瀬市への移転に対する関心を事前に把握しておくことが重要である。

施策⇒5年から10年の中長期的な視点で取り組む。

- ▶ 病院を開院するためには、計画段階から建設を経て5年程度を要することから、誘致先決定までと開院までの期間で5年から10年を要する。
- ▶ 病院誘致に必要な財政支援の検討に資するため、過去の自治体における事例調査（建設補助、政策医療運営補助、建設用地の貸与条件等）を行う。
- ▶ 誘致病院に求める機能（診療科、重点医療、休日夜間対応等）、規模（病床数等）を検討する。
- ▶ 今後の大規模自然災害や新型コロナウイルスによるパンデミックへ対応できる病院の機能を想定し、一部の先進事例にもみられる公共施設と病院の合築等の可能性についても検討する。
- ▶ 県央医療圏内の二次救急医療機関の移転意向等に関する調査を行う。
- ▶ 誘致候補病院がある場合は、選定方法（公募または随契）について検討する。
- ▶ 公募の場合は、公募と評価を経て誘致候補病院を決定し、協定を締結する。
- ▶ 病院誘致は、実現までに中長期の期間を要することから、期間中の医療政策や地域医療の状況を踏まえ、施策の必要な見直しを適宜行う。

【診療所誘致】

考察

- 開業医の高齢化に伴い、市内の診療所で閉院が相次いでいる。
- 診療科の充実については、内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、整形外科、眼科が上位を占めている。一方、子育て世代からは、夜間・休日にも対応する小児科の設置が要望されている。
- 近年では、同一ビルに複数の診療科がテナントとして入居する医療モールや同一敷地に複数の診療所を配置する医療ヴィレッジ等の設置事例がみられる。
- 医療モールに関して患者側のメリットは、1日で複数科を受診しやすいことがあげられる。診療所側のメリットとしては、専門外の診療科へ迅速に患者を紹介できることやトイレ、エレベータ等の共有部分を共同で利用できることがある。

施策⇒1年から3年の短期的な視点で取り組む。

- 診療所誘致については、誘致する診療科や誘致形態（医療モール型または地域個別分散型等）を検討し、誘致診療所を確保する活動を進める。
- 診療所の誘致を促進するための誘致条件（土地・建物貸与、開業支援等）について検討する。

【交通アクセスの向上】

考察

- 近隣市の病院で駅やバス停から遠いところは、独自に送迎バスを運行しているケースがみられる。また、運行経路を複数設け、異なる地域の患者の受診の利便性の向上を図っている病院もある。一方、市内の医療機関においては、現時点ではこうした取組は確認されていない。
- 市民が通院している市内の診療所や綾瀬厚生病院へのアクセス手段として、コミュニティバスの利用は限定的である。また、市民からは、これらの医療機関へのコミュニティバス路線の延伸を求める意見が寄せられている。
- 具体例として、綾瀬厚生病院には、コミュニティバス2号車「市役所～相模大塚駅ルート」がおおむね1時間30分～2時間間隔で1日7便、5号車「市役所～高座屋内温水プールルート」が3時間間隔で1日4便運行されている。一方、早園地域や綾南地域はこれらの運行ルートから外れており、当該地域の市民にとっては利用が難しい状況にあると考えられる。
- 一方で、大和市の中央林間西側地域で運行されているコミュニティバス「中央林間駅～南林間駅（右回りルート）」および「中央林間駅～南林間駅（左回りルート）」は、それぞれ30分間隔で1日22便運行されている。これらの路線は、中央林間病院前、大和成和病院前、愛育病院前に停車しており、患者の通院利便性の向上に寄与している。
- 近隣市で送迎バスを運行している海老名総合病院、藤沢湘南台病院、南大和病院については、送迎バスの綾瀬市内への延伸の可能性を含め、今後協議を進めていく必要がある。
- 海老名市では、相鉄バス(株)、NTTコミュニケーションズ(株)、先進モビリティ(株)と連携し、2025年3月に「公道での自動運転EVバス」の実証実験を実施している。

- 藤沢市天神町では、神奈川中央交通(株)および神奈川タクシー(株)が、2024年6月からオンデマンドバスの実証実験を開始している。同バスは、スマートフォンアプリで目的地を予約する仕組みであり、医療機関への通院等を含む活用事例が他地域でも確認されている。

施策⇒1年から3年の短期的な視点で取り組む。

- コミュニティバスの運行状況の見直しや、医療機関による送迎バスの延伸を含めた対応について検討する。
- 新たな交通手段としての自動運転バスやオンデマンドバスの導入可能性について検討する。

【綾瀬厚生病院の機能向上】

考察

- 当病院は、近年、ふれあいグループの傘下となり、グループ内においてケアミックスを担う病院として位置づけられている。
- ケアミックスとは、同一病院において、病棟または病室単位で急性期医療と慢性期医療、あるいは介護療養機能を併せ持つ医療提供体制の総称である。このため、急性期医療については、限られた規模での対応となっている。
- 市民からは、当病院を受診する際の交通アクセスの課題についても意見が寄せられている。

施策⇒1年から3年の短期的な視点で取り組む。

- 病院との情報共有の場を設け、課題や改善策について検討する。
- 通院の利便性向上に向け、病院へのコミュニティバスの便数（運行間隔）や運行地域の見直しを含めた対応について検討する。

【地域医療に関する情報発信】

考察

- 財源や人材に限りのある医療資源の適正化の観点から、病床数の適正化が進められている。
- 調査で散見された「綾瀬市民病院の新設」や「三次医療を担う大学病院」の誘致については、地域医療計画および医療資源の適正化の観点から、実現は困難である。

施策⇒1年から3年の短期的な視点で取り組む。

- 座間綾瀬医師会等と連携し、地域医療への理解促進を目的とした市民公開講座等の開催について検討する。
- 市のホームページや広報誌等により、地域の医療機関に関する情報を定期的に発信することを検討する。

綾瀬市地域医療に関する市民アンケート調査
報告書

発行日 令和8年2月

編集・発行 綾瀬市健康こども部医療健康課

〒252-1192 神奈川県綾瀬市早川 550 番地

電話：0467-77-1111（代表）